



|              |                                                                                       |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 令和七年度 名誉教授一覧                                                                          |
| Author(s)    |                                                                                       |
| Citation     | 大阪大学大学院人文学研究科紀要. 2026, 3, p. 267-318                                                  |
| Version Type | VoR                                                                                   |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/104666">https://hdl.handle.net/11094/104666</a> |
| rights       |                                                                                       |
| Note         |                                                                                       |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 令和七年度 名誉教授 一覧

|     |       |       |    |                                  |
|-----|-------|-------|----|----------------------------------|
| ※浅見 | あさ み  | よう じ  | 教授 | 人文学専攻・文学・言語学講座（中国文学）             |
| ※伊東 | い とう  | のぶ ひろ | 教授 | 芸術学専攻・芸術学講座（音楽学）                 |
| ※井元 | い もと  | ひで たけ | 教授 | 言語文化学専攻・言語認知科学講座                 |
| 大澤  | おお さわ | たかし   | 教授 | 外国学専攻・トルコ語                       |
| ※岡島 | おか じま | あき ひろ | 教授 | 日本学専攻・日本文学・日本語史学講座               |
| 大津  | おお つ  | のり ひこ | 教授 | 外国学専攻・英語                         |
| ※岸田 | きし だ  | ふみ たか | 教授 | 外国学専攻・朝鮮語                        |
| 津田  | つ だ   | やす お  | 教授 | 言語文化学専攻・表象文化論講座                  |
| ※堤  | つつみ   | かず あき | 教授 | 人文学専攻・グローバルヒストリー・地理学講座<br>（東洋史学） |
| ※藤岡 | ふじ おか | ゆたか   | 教授 | 芸術学専攻・美術史講座（日本東洋美術史）             |
| ※山本 | やまもと  | よし き  | 教授 | 言語文化学専攻・表象文化論講座                  |

※印の方については、略歴と主要業績の一覧を掲載しています。

## 浅見洋二名誉教授 略歴・主要業績

### ■略歴

#### 学歴

- 1979年 3 月 埼玉県立熊谷高校卒業
- 1983年 3 月 東北大学文学部文学科中国文学専攻卒業
- 1985年 3 月 東北大学大学院文学研究科博士課程前期中国学専攻修了、文学修士
- 1986年 3 月 東北大学大学院文学研究科博士課程後期中国学専攻単位取得退学
- 2009年 1 月 博士（文学）（京都大学）

#### 職歴

- 1986年 4 月 東北大学文学部助手
- 1987年 4 月 山口大学人文学部助手
- 1988年 4 月 山口大学人文学部講師
- 1990年 9 月
- ～ 1991年 8 月 中華人民共和国山東大学文史哲研究所訪問学者
- 1994年 4 月 山口大学人文学部助教授
- 1996年10月 大阪大学文学部助教授
- 1999年 4 月 大阪大学大学院文学研究科准教授
- 2003年 8 月
- ～ 2004年 8 月 アメリカ合衆国ハーバード・イエンチン研究所Visiting Scholar
- 2009年 4 月 大阪大学大学院文学研究科教授
- 2022年 4 月 大阪大学大学院人文学研究科教授 現在に至る
- 2024年 4 月
- ～ 2024年 5 月 香港浸会大学孫少文伉儷人文中国研究所訪問学者

#### 学会活動

日本中国学会副理事長、東方学会学術委員、日本宋代文学学会会長、中国社会文化学会評議員、東方詩話学会副会長等

## ■主要業績

### 著書（単著）

1. 中国の詩学認識—中世から近世への転換—, 創文社, 708p., 2008年2月, 博士論文（京都大学）
2. 中国宋代文学の圏域—草稿と言論統制—, 研文出版, 335p., 2019年9月
3. 陸游（新釈漢文大系詩人編12）, 明治書院, 525p., 2022年10月

### 著書（単著・中国語版）

1. 距離与想象—中国詩学的唐宋転型—, 金程宇・岡田千穂訳, 上海古籍出版社, 507p., 2005年12月
2. 文本の密碼—社会語境中的宋代文学—, 李貴・趙蕊蕊等訳, 復旦大学出版社, 311p., 2018年8月

### 著書（共編著）

1. 蘇軾・陸游, 角川書店, 478p., 1989年2月, 村上哲見と共著
2. 日本宋史研究の現状と課題—1980年代以降を中心に—, 汲古書院, 413p., 2010年5月, 遠藤隆俊・平田茂樹と共著
3. 蒼海に交わされる詩文（東アジア海域叢書13）, 汲古書院, 356p., 2012年10月, 堀川貴司と共編
4. 詩僧皎然集注, 汲古書院, 350p., 2014年3月, 乾源俊等と共著
5. 皇帝のいる文学史—中国文学概説—, 大阪大学出版会, 376p., 2015年4月, 高橋文治・谷口高志と共著  
〔中国語版〕有皇帝的文学史, 黄小珠・曹逸梅訳, 鳳凰出版社, 291p., 2021年11月
6. 韓愈詩訳注 第一～三冊, 川合康三・緑川英樹・好川聡編, 研文出版, 505p., 2015年4月, 565p., 2017年10月, 481p., 2021年10月
7. 文選 詩篇（一）～（六）, 岩波書店, 2541p., 2018年1月～2019年6月, 川合康三・富永一登・釜谷武志・和田英信・緑川英樹と共著
8. 和漢韻文文学の諸相, 村上哲見著, 勉誠社, 365p., 2025年3月, 松尾肇子と共編

### 翻訳書（単独訳）

1. 牛波詩集, 牛波著, 書肆山田, 216p., 1993年11月
2. 幸福なる魂の手記, 楊煉著, 思潮社, 239p., 2005年3月

### 翻訳書（共訳編）

1. 現代中国詩集 China mist, 思潮社, 157p., 1996年7月, 財部鳥子・是永駿と共訳編
2. 黎明の縁, 焦桐著, 思潮社, 62p., 2005年3月, 北川透・新井豊美等と共訳編

### 論文（単著）

1. 李商隠の詠物詩, 集刊東洋学, 第54号, pp.18-37, 1985年12月
2. 李商隠の詠史詩について, 文化, 第50巻第3・4号, pp.113-131, 1987年3月
3. 初盛唐詩における風景と絵画, 山口大学文学会志, 第42巻, pp.87-112, 1991年12月
4. 閨房のなかの山水、あるいは瀟湘について—晩唐五代詞における風景と絵画—, 集刊東洋学, 第67号, pp.43-65, 1992年5月
5. 晩唐五代詩詞中の風景と絵画, 唐代文学研究, 第3輯, pp.413-426, 1992年8月
6. 中晩唐詩における風景と絵画, 日本中国学会報, 第44集, pp.97-114, 1992年10月
7. 「詩中有画」をめぐって—中国における詩と絵画—, 集刊東洋学, 第78号, pp.58-80, 1997年11月
8. 中国の自然認識におけるピクチュアレスク, 待兼山論叢, 第31号文学編, pp.1-18, 1997年12月
9. 「詩中有画」と「宛然在目」—中国における詩と絵画—, 松本肇・川合康三編, 中唐文学の視角, 創文社, pp.273-309, 1998年2月
10. 距離と想像—中国における詩とメディア、メディアとしての詩—, 宋代史研究会編, 宋代社会のネットワーク, 汲古書院, pp.275-320, 1998年3月
11. 「詩中有画」と「著壁成絵」—中国における詩と絵画—, 日本中国学会報, 第50集, pp.108-123, 1998年10月  
〔中国語版〕“詩中有画”与“著壁成絵”—從兩種王維評看中国古代的詩画論—, 唐代文学研究, 第11輯, pp.34-55, 1992年8月
12. 標題の詩学—沈約、王昌齡、司空図、そして宋代の「著題」論を結ぶもの—, 村上哲見先生古稀記念論文集刊行委員会編, 中国文人の思考と表現, 汲古書院, pp.149-168, 2000年7月  
〔中国語版〕標題的詩学—論宋代文人的“著題”論及其源流—, 新宋学, 第1輯, pp.199-208, 2001年10月
13. The Study of Poetry as Historical Source Material: Focusing on the Term 'Poetic-Histry', The Research Group of Historical Materials in Song China ed., *The Study of Song History from the Perspective of Historical Materials*, pp.180-203, 2000年8月

14. 詩はどこから来るのか、それは誰のものか—宋代詩学における〈内部〉と〈外部〉、〈自己〉と〈他者〉、あるいは〈貨幣〉、〈商品〉、〈資本〉—，伊原弘・小島毅編，知識人の諸相—中国宋代を基点として—，勉強出版，pp.162-177，2001年4月  
 〔中国語版〕詩来自何处？為誰所有？—有関宋代詩学中的“内”与“外”、“己”与“他”以及“錢”、“貨”“資本”概念的討論—，中国詩学，第8輯，pp.180-190，2003年6月  
 〔韓国語版〕徐銀淑訳，中国語文論訳叢刊，第18輯，pp.415-434，2006年7月
15. 文学の歴史学—宋代における詩人年譜、編年詩文集、そして「詩史」説について—，川合康三編，中国の文学史観，創文社，pp.61-99，2002年2月  
 〔中国語版〕論“詩史”説—“詩史”説与宋代詩人年譜、編年詩文集編纂之関係—，唐代文学研究，第9輯，pp.773-788，2002年4月  
 〔中国語版〕文学の歴史学—宋代詩人年譜、編年詩文集及“詩史”説—，張劍・易愛華訳，新文学，第3輯，pp.102-125，2005年2月
16. 「夢中得句」をめぐって—中国詩学における〈内部〉と〈外部〉、〈自己〉と〈他者〉—，林田愼之助先生古稀記念論集刊行委員会編，中国読書人の政治と文学，創文社，pp.31-53，2002年10月
17. 詩を「拾得」ということ、ならびに「詩本」、「詩材」、「詩料」について—楊万里、陸游を中心に—，宋代詩文研究会，橄欖，第11号，pp.174-200，2002年12月  
 〔中国語版〕論“拾得”詩歌現象以及“詩本”、“詩材”、“詩料”問題—楊万里、陸游為中心—，沈松勤主編，第四屆宋代文学国際研討会論文集，浙江大学出版社，pp.256-279，2006年10月
18. 関於詩与“本事”、“本意”以及“詩識”—論中国古代文学作品接受過程中的文本与語境的关系—，新国学，第4卷，pp.1-5，2002年12月
19. 「詩史」説の系譜—白居易「和答詩・和楊城駅」を手がかりに—，浅見洋二編，唐宋期の詩と詩学に関するメディア論的研究，平成11～14年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書，pp.50-63，2003年7月
20. 作者の夢、読者の夢—宋代における詩の解釈学をめぐって—，文藝論叢，第64号，pp.26-44，2005年3月  
 〔中国語版〕作者之夢与読者之夢—以宋代詩的解釈学為中心—，尚永亮訳，長江學術，第8輯，pp.88-96，2005年6月
21. 「形似」の変容—言葉と物の関係から見たいわゆる宋詩の日常性に関する一考察—，中国—社会と文化—，第20号，pp.390-408，2005年6月  
 〔中国語版〕「形似」の新変—從語言与事物的關係論宋詩的日常性特点—，張高評主編，

- 宋代文学之会通与流变—近世文学国際研討会論文集一，新文豊出版公司，pp.1-27，2007年3月
22. 「空谷幽蘭」と「水月鏡花」一詩の解釈における歴史主義をめぐって一，浅見洋二編，テキストの読解と伝承，平成14～16年度大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究報告書，pp.145-159，2006年3月
23. 「売詩」、「売文」ということ，加地伸行博士古稀記念論集刊行会編，中国学の十字路，研文出版，pp.387-402，2006年4月
24. 「焚棄」と「改定」—唐宋期における別集の編纂あるいは定本の制定をめぐって—立命館文学，第598号，pp.30-40，2007年2月  
〔中国語版〕“焚棄”与“改定”—論宋代別集の編纂或定本の制定—，朱剛訳，中国韻文学刊，2007年第3期，pp.80-92，2007年9月
25. 宋代の宮廷文学，仁平道明編，王朝文学と東アジアの宮廷文学，竹林舎，pp.229-255，2008年5月
26. 黄庭堅詩注の形成と黄氏『山谷年譜』—真蹟・石刻の活用を中心に—，集刊東洋学，第100号，pp.182-205，2008年11月  
〔中国語版〕黄庭堅詩注の形成と黄氏『山谷年譜』—以真蹟及石刻の利用為中心—，中山大学学报，pp.24-37，2011年3月
27. 校勘から生成論へ—宋代の詩文集注釈、特に蘇黄詩注における真蹟・石刻の活用をめぐって—，東洋史研究，第68巻第1号，pp.34-69，2009年6月  
〔中国語版〕由校勘到生成論—有関宋代詩文集の注釈特別是蘇黄詩注中真蹟及石刻の利用—，東華漢学，pp.1-35，2008年12月
28. 中国宋代における生成論の形成—欧陽脩『集古録跋尾』から周必大『欧陽文忠公集』へ—，文学，第11巻第5号，pp.173-187，2010年9月  
〔中国語版〕宋代文本生成論の形成—從欧陽脩撰《集古録跋尾》到周必大編《欧陽文公集》—，李貴訳，楊国安・呉河清主編，第7回宋代文学国際研討会論文集，河南大学出版社，pp.348-359，2013年9月
29. 楊万里と「詩債」，日本宋代文学学会報，第1集，pp.94-115，2015年5月  
〔中国語版〕楊万里与“詩債”，新宋学，第4輯，pp.63-76，2015年9月
30. テキストと秘密—言論統制下の文学テキスト・余説—，宋代詩文研究会，橄欖，第20号，pp.40-72，2016年4月  
〔中国語版〕文本与秘密—再論言論統制下の文学文本—，宋代文学評論，第3輯，pp.243-267，2018年6月

31. 中国詩歌中の児童と童年—從陶淵明到陸游、楊万里—, 人文中国学報, 第22期, pp.23-48, 2016年5月
32. 「避言」ということ—『論語』憲問から見た中国における言論と権力—, 中国学研究集刊, 第62号, pp.1-17, 2016年6月
33. 蘇軾及楊万里詩中の擬人化, 政大中文学報, 第26期, pp.5-26, 2016年12月
34. 言論統制下の文学テキスト—蘇軾の創作活動に即して—, 大阪大学大学院文学研究科紀要, 第57巻, pp.55-110, 2017年3月  
〔中国語版〕言論統制下の文学文本—以蘇軾詩歌創作為中心—, 復旦学報, 2016年第4期, pp.2-17, 2016年7月
35. 文本的“公”与“私”—蘇軾尺牘与文集編纂—, 文学遺産, 2019年第5期, pp.72-84, 2019年9月
36. 韓愈「拘幽操」について—罪人の文学史・初探—, 東英寿編, 唐宋八大家の諸相, 中国書店, pp.93-129, 2021年3月  
〔中国語版〕論韓愈《拘幽操》—“罪人文学史”初探—, 唐代文学研究, 第18輯, pp.55-72, 2019年12月
37. 罪と田園、あるいは幽風について—蘇軾・陸游ノート—, 大阪大学大学院文学研究科紀要, 第61巻, pp.47-134, 2021年3月  
〔中国語版〕罪与田園—蘇軾、陸游研究の一箇視点—, 文学論衡, 第36期, pp.12-29, 2020年6月
38. 盲者のシンボリズム—韓愈「拘幽操」、孟郊「寄張籍」、そして『論語』微子を結ぶもの—, 東英寿編, 唐宋八大家研究, 中国書店, pp.70-83, 2022年3月
39. 陸游詩中の田園与国家—以《耕織図詩》及勸農文、諭俗文為線索—, 衣若芬編, 五声十色：文図学視聽進行式, 文図学会, pp.13-39, 2022年5月
40. 罪人与盲者—中国文学中光明与黑暗的象徵体系—, 中国文学学報, 第12号, pp.88-96, 2022年6月
41. 「士」と「農」、「勸農」と「躬耕」—陸游とその田園詩について—, 平田茂樹編, 宋代とは何か, 勉誠社, pp.155-170, 2022年6月
42. 父と子—蘇軾・陸游の詩における「孝」をめぐる—, 國學院中國學會報, 第68号, pp.1-24, 2022年12月  
〔中国語版〕血的連鎖—蘇軾、陸游詩中の“孝”—, 中国詩学研究, 第23輯, pp.75-90, 2023年6月
43. 天のはからい—蘇軾と陸游を結ぶもの—, 日本宋代文学学会報, 第10集, pp.141-170,

2023年12月

〔中国語版〕天的裁決—蘇軾与陸游的聯結—，盧信怡訳，三蘇學刊，第2卷第3期，pp.381-389，2025年9月

44. 文人と税—杜甫・白居易・蘇軾・陸游を中心に—，文藝論叢，第102号，pp.1-30，2024年3月
45. 中国詩学における「力」の諸相，中国—社会と文化，第39号，pp.5-25，2024年7月
46. 「有力」と「無意」—中国詩学における風と水のイメージをめぐって—，川合康三先生喜寿記念論集刊行会編，〈中国の詩学〉を超えて，pp.373-409，2024年10月  
〔中国語版〕“有力”与“無意”—中国詩学中“風”与“水”的意象—，文藝研究，第391号，pp.43-58，2024年9月
47. 「箭鋒」—釈惠洪と蘇軾、黄庭堅、そして江西詩派の詩学をつらぬくもの—，日本中国学会報，第76集，pp.73-88，2024年12月  
〔中国語版〕“箭鋒相直”—釈惠洪与蘇軾、黄庭堅及江西詩派之詩学淵源—，王文欣訳，三蘇學刊，第2卷第1期，pp.112-127，2025年3月
48. 弾丸のゆくえ—「活法」論をめぐって—，国際中国人文學報，第1期，pp.227-252，2026年1月
49. 「明珠走盤」—「活法」論の形成と釈惠洪—，東方学，第151輯，pp.1-26，2026年1月

#### 論文（共著）

1. 文本与権力—南宋時期的鄉論制作—，湖北大学学报，第52卷第4期，pp.60-69，2025年7月，岑天祥と共著

#### 批評・エッセイ等

1. 〈あてどもない遊行者〉—芒克『時間のない時間』をめぐる断章—，芒克著『時間のない時間』解説，書肆山田，pp.121-143，1991年11月
2. 男の子がひとり、境界の河を越えて送信する、詩—北島の詩をめぐる断章—，省察，第4号，pp.70-91，1992年11月
3. 詩は世界を画くか？—中晩唐期における詩と絵画—，創文，第352号，pp.10-14，1994年3月
4. 史料論としての文学研究に向けて—宋代文人の詩と詩学—，アジア遊学，第7号，pp.28-40，1999年8月
5. 中国の詩と風景—「江山之助」をめぐって—，アジア遊学，第31号，pp.15-25，2001年

9月

6. 無人称の空間—楊煉の詩について—, 現代詩手帖, 第48巻第6号, pp.103-107, 2005年6月
7. 「文章一小技」—五山禪林の詩僧にとっての「道」と「詩」—, アジア遊学, 第93号, pp.90-99, 1999年8月
8. 中国詩学における「近代」—「焚棄」と「改定」余説—, 創文, 第510号, pp.23-26, 2008年7月
9. 子どもの情景、あるいは田園の憂鬱—楊万里の詩について—, 創文(季刊), 第1号, pp.4-6, 2011年5月
10. 眼中に歴歴として幽風を見る—陸游の詩にうたわれた楽土としての農村—, 懷徳, 第82号, pp.35-45, 2014年1月
11. 詩人の夢、詩人の死—蘇軾と鄭侠の物語をめぐって—, 伊原弘・静永健編, 『夷堅志』の世界, 勉誠社, pp.55-62, 2015年
12. 罪人の笑い—柳宗元と蘇軾—, 東英寿編, 唐宋八大家研究, 中国書店, pp.160-166, 2022年3月
13. さまざまなる自責—蘇洵「自尤」詩をめぐって—, 東英寿編, 唐宋八大家研究, 中国書店, pp.219-226, 2022年3月
14. 「避言」と「秘密」—中国の詩をつらぬくもの—, 現代詩手帖, 第63巻第4号, pp.62-69, 2020年3月
15. 「目録学」「総集」「黄庭堅」「陸游」「文天祥」, 川合康三・大谷雅夫等編, 中国/日本〈漢〉文化事典, 明治書院, pp.36-41, pp.42-44, pp.375-377, pp.389-394, pp.415-416, 2022年3月
16. 文人与税—以陸游為中心—, 紹興文理学院学報, 2025年第9期・第45巻, pp.8-12, 2025年9月

## 書評

1. 「作家と作品」、「詩識」そして「恐ろしい文学」—作品が読まれるということ—, 松本肇著『唐宋の文学』書評, 中国文学報, 第62冊, pp.117-129, 2001年4月
2. 衣若芬著『觀看・叙述・審美—唐宋題画論集—』書評, 中国文学報, 第69冊, pp.201-214, 2005年4月
3. 横山伊勢雄著『宋代文人の詩と詩論』書評, 中国文学報, 第78冊, pp.181-196, 2009年9月

4. 「水」と「斧」, 王宇根著『万卷：黄庭堅和北宋晩期詩学中的閱讀与写作』書評, 未名, 第36号, pp.47-77, 2018年3月  
〔中国語版〕“水”与“斧”—王宇根《万卷：黄庭堅和北宋晩期詩学中的閱讀与写作》書評一, 王悦笛訳, 中外論壇, 2021年第4期, pp.185-206, 2021年12月
5. 渡邊義浩著『「古典中国」における文学と儒教』書評, 六朝学会報, 第18集, pp.81-90, 2017年3月

#### 論文翻訳

1. 朱剛著「北宋の賢良進卷について」, 中国—社会と文化, 第24号, pp.252-269, 2009年7月
2. Stephen Owen著「詩とその歴史的基礎」, 浅見洋二編, テクストの読解と伝承, 平成14～16年度大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究報告書, pp.130-144, 2006年3月
3. Christian de Pee著「言葉の区画—北宋の洛陽における地誌記述と都市空間—」, 須江隆編, 碑と地方志のアーカイブズを探る (東アジア海域叢書6), 汲古書院, 2012年4月
4. 周裕鍔著「恵洪の文字禪について—その理論と実践および後世への影響—」, 堀川貴司・浅見洋二編, 蒼海に交わされる詩文 (東アジア海域叢書13), 汲古書院, 2012年10月

## 伊東信宏名誉教授 略歴・主要業績

### 学歴

- ・1984年3月24日 大阪大学文学部美学科卒業（音楽・演劇学専攻）
- ・1987年3月26日 大阪大学大学院文学研究科（芸術学専攻）博士前期課程修了
- ・1991年3月31日 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学
- ・2010年4月22日 大阪大学より博士（文学）

### 職歴

- ・1990年4月1日 日本学術振興会特別研究員（DC、およびPD）（1992年3月まで）
- ・1992年4月1日 ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽院研究員（国際交流基金研究者長期派遣助成による）
- ・1993年1月1日 引き続きハンガリー政府奨学金留学生としてリスト・フェレンツ音楽院、およびハンガリー科学アカデミー音楽学研究所バルトーク・アルヒーフにおいて研究活動（同年4月まで）
- ・1993年6月1日 大阪教育大学教育学部助教授
- ・1999年9月1日 放送大学大阪学習センター客員助教授（2002年3月まで）
- ・2004年4月1日 大阪大学大学院文学研究科助教授
- ・2007年4月1日 同准教授（職名変更により）
- ・2010年4月1日 同教授
- ・2022年4月1日 同人文学研究科教授（新研究科設立により）
- ・2022年10月1日 大阪大学中之島芸術センター長（2025年3月まで）

### その他の兼務

広島大学、岡山大学、島根大学、放送大学大阪学習センター、神戸大学、京都市立芸術大学、同志社女子大学、京都大学、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、東京藝術大学などで非常勤講師。

国立民族学博物館、国際日本文化研究センター、奈良県立万葉古代学研究所で共同研究員、リュブリアナ大学芸術学部博士課程指導教員、ロンドン大学ゴールドスミス校アジア音楽ユニットアドバイザーなどを歴任。東京芸術大学、東京大学、東京音楽大学、関西学院大学で博士論文副査。

## 社会的活動

- ・NHK-FM「オーケストラの夕べ」「FMシンフォニー・コンサート」「ブラボー・オーケストラ」などの番組でパーソナリティ。
- ・『朝日新聞』、『音楽の友』などに30年以上にわたって演奏会批評を寄稿。

## 主要業績

### I. 著書（いずれも単著）

1. 『バルトーク：民謡を「発見」した辺境の作曲家』（中公新書1370、1997年7月、全204頁）
2. 『ハイドンのエステルハージ・ソナタを読む』（春秋社、2003年3月、全210頁）
3. 『中東欧音楽の回路：ロマ・クレズマー・20世紀の前衛』（岩波書店、2009年3月、全217頁）
4. 『バルトークの民俗音楽編曲』（大阪大学出版会、2012年9月、全213頁）
5. 『東欧音楽綺譚』（音楽之友社、2018年10月、全256頁）
6. 『東欧音楽夜話』（音楽之友社、2021年2月、全256頁）

### II. 編著・共著など

1. 伊東信宏編『バルトーク大全集（CD）』解説書（ユニバーサル・ミュージック、1999年11月、全365頁）
2. 楽譜『バルトーク集』第1～7巻（春秋社、2003年9月～2008年12月、「序」および「作品解説」を担当）
3. 伊東信宏編『ピアノはいつピアノになったか？』（大阪大学出版会、2007年3月、全273頁）
4. 関府寺司、伊東信宏、三谷研爾編『コンフリクトのなかの芸術と表現：文化的ダイナミズムの地平』（大阪大学出版会、2012年3月、全371頁）
5. 『ピアノへの旅』（坂本龍一他と共著、アルテス出版、2021年7月、全200頁）
6. 伊東信宏編『東欧演歌の地政学』（アルテス出版、2023年4月、全354頁）

### III. 博士学位論文

1. 「バルトークによる民俗音楽調査・研究・編曲」（博士学位請求論文、2009年、全243頁）

### IV. 訳書

1. バルトーク・ベーラ著『ハンガリー民謡』（間宮芳生との共訳〔歌詞対訳および巻末解

説担当]、全音出版、1995年3月、全303頁)

2. ヤーノシュ・カールパーティ著『バルトークの室内楽曲』(江原望との共訳、法政大学出版局、1998年3月、全440頁)
3. バルトーク・ペーラ著『バルトーク音楽論選』(太田峰夫との共訳、ちくま学芸文庫、2018年6月、全287頁)
4. サーシャ・バッチャーニ著『月下の犯罪：一九四五年三月、レヒニッツでおきたユダヤ人虐殺、そして或るハンガリー貴族の秘史』(伊東信宏訳、講談社メチエ、2019年8月、全294頁)

#### V. 論文(特記以外いずれも単著、単行本などの章担当も含む)

1. 「音楽における枠組みと逸脱：ペーラ・バルトークの《ミクロコスモス》第101番〈減五度〉をめぐる」(『待兼山論叢』第23号、大阪大学文学会、1989年12月、pp.1-19)
2. 「バルトークと『ジプシー音楽』」(『音楽芸術』第48巻第6号、1990年6月、音楽之友社、pp.34-37)
3. "Die Bedeutung des Quellenmaterials für die Untersuchung der Volkslied-bearbeitung bei Bela Bartok: Dargestellt am Duo Nr.19 "Marchen" aus den 44 Duos für zwei Violinen" (*Musics beyond cultural boundaries: in honour of Prof. Dr. Christoph-Helmut Mahling, for his visit to Japan in 1989*. TANIMURA & YAMAGUTI (Eds), Tokyo & Osaka: Mita Press, 1990 July. pp.115-122)
4. "Zum Problem des Tritonus bei Bartoks Mikrokosmos" (*Florilegio Musicale: Festschrift KATAOKA GIDO zum 70. Geburtstag*, hrsg. von TANIMURA, MABUCHI und TAKIMOTO, Tokyo: Ongaku no Tomo sha, 1990 December. pp.207-216)
5. 「音楽形式学再考：ヨーロッパ音楽に対する民族音楽学的視点」(『季刊音楽教育研究』第67号 [1991年春号]、音楽之友社、pp.95-101)
6. 「バルトークの〈夜の音楽〉における環境の作品化」(山田陽一・藤井知昭編、民族音楽叢書第七巻『環境と音楽』、東京書籍、1991年4月、pp.261-283)
7. "Some problems concerning the study of folksong arrangements: No.28 from 44 Duos for two violins by Bela Bartok" (徳丸吉彦他編、『音楽における伝統とその未来』第4回国際音楽学会シンポジウム報告書、三田出版会、1991年4月、pp.49-54)
8. 「ペーラ・バルトークにおける『農民音楽』の概念」(『民族芸術』第7号、講談社、1992年4月、pp.88-92)
9. 「『国民楽派』という用語の諸前提：『民族』はどのように『音楽』と結びついたか」(『季

- 刊音楽教育研究』第71号〔1992年春号〕、音楽之友社、pp.34-41)
10. 「フランツ・リストによる《ハンガリアン・ラプソディー》のプログラム：古代ラプソデーから「ジプシー叙事詩」へ」（『谷村晃先生退官記念論文集：音と言葉』、音楽之友社、1993年9月、pp.161-173)
  11. “From folksong to autonomous ‘work’: two examples from Bela Bartok’s *44 Duos* (Sz. No. 98)” (Music cultures in interaction: cases between Asia and Europe, MABUCHI Usaburo and YAMAGUTI Osamu (Eds), Academia Music Ltd., 1994 November. pp.126-137)
  12. 「その後のバルトークによるハンガリー民謡研究」（バルトーク・ペーラ著『ハンガリー民謡』間宮・伊東訳、全音楽譜出版、1995年3月、pp.290-297)
  13. 「音の記憶を辿る：トランシルヴァニア」（中川真編『小さな音風景へ』、時事通信社、1997年5月、pp.187-217)
  14. 「ストラヴィンスキー《婚礼》における非「表現」」（小島律子・澤田篤子編『表現における音楽』、晃洋書房、1998年3月、pp.126-135)
  15. 「バルトークという音楽の人格」（伊東信宏監修『バルトーク大全集』解説書、ユニバーサル・ミュージック、1999年11月、pp.44-75)
  16. 「シャガールのヌーシュ叔父さんはどんなヴァイオリンを弾いたか：クレズマーをめぐる文化研究的試論」（『ExMusica』第4号、2001年3月、pp.88-96)
  17. 「音の『身振り』を記述する：ハイドンのピアノ・ソナタと楽曲分析」（岡田暁生編『ピアノを弾く身体』、春秋社、2003年3月、pp.113-136)
  18. 「民族の音楽／音楽の民族：コダーイ、クンデラ、そしてモルドヴァのファンファーラ」（大津留厚編『民族』、ミネルヴァ書房、2003年11月、pp.181-216)
  19. 「《ジプシーの恋》をめぐるスケッチ：オペレッタ研究のために」（2002年度～2003年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書『メロドラマ的思考形式と19世紀ヨーロッパの音楽劇』研究代表者内田正博、2004年2月、pp.20-32)
  20. “Japanese composers confront Japanese tradition: works by Michio Mamiya and Minao Shibata”, *Handai Ongakugaku-ho*, Vol.3, April 2005, pp.57-70.
  21. ステラ・ジプコバと共著「ブルガリアのチャルガ：アイデンティティ、変革、グローバルイゼイション」（『民族藝術』第21巻、2005年4月、pp.57-70)
  22. 「ルーマニア民俗音楽の「性格」をめぐる：エネスク《ヴァイオリン・ソナタ第3番》に関するいくつかの論点」（『待兼山論叢』第39号、2005年12月、pp.1-22)
  23. 「粉挽き場というトボス：《美しき水車小屋の娘》前史」（長野順子・小田部胤久編『交

- 響するロマン主義』(シェリング論集5)、2006年6月、pp.135-156)
24. 「中・東欧民俗音楽研究のための序説」(『大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」最終報告書』2007年3月、pp.17-25)
  25. 「バルトーク《44の二重奏曲》第10曲「ルテニア」の歌の生成プロセス」(飯倉洋一編『テクストの生成と変容』大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究 研究成果報告書、2008年3月、pp.33-39)
  26. “Az utolsó hiányzó láncszemek: Bartók, Negyvennégy duó, 8. Sz. – a “Tót nótá” eredeti népzenei forrása” (「パズルの最後の1ピース：バルトーク《44の二重奏曲》第8番「スロヴァキアの歌」のオリジナル民謡」(ハンガリー語)), in *Parlando* 50. Évfolyam 2008. 6. Szám. pp.7-10.
  27. 「ロマの楽師に成る：エネスクにおけるヴァイオリンを弾く身体」山田陽一編『音楽する身体：〈わたし〉へと広がる響き』(昭和堂、2008年8月、pp.69-86)
  28. 「ブルガリアの『チャルガ』＝「ポップフォーク」におけるロマの位置」(『シンポジウム「ユーラシアと日本」パフォーマンスと文化：ユーラシアと日本における交流と表象報告書』人間文化研究機構連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」、2010年2月、pp.46-49)
  29. 「バルトーク《44の二重奏曲》の成立：ドフラインとの書簡を中心に」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第50巻、2010年3月、pp.69-89)
  30. 「バルトーク《44の二重奏曲》における民俗音楽素材の選択」(『阪大音楽学報』第8巻、2010年3月、pp.207-218)
  31. 「外からの音、内からの響き：ブルガリアのズルナをめぐるスケッチ」(連携研究報告書、2010年)
  32. Bulgarian Zurna in traditional music and in Pop-folk, in International Symposium “Double-reed Instruments in Eurasia: History, Context, and Representation” Proceedings, Y. Terada ed., National Institute for the Humanities, Cooperative Research Project “Eurasia and Japan: Interaction and Representation”, 2010 March, pp.29-37.
  33. 「バルトーク《子供のために》をめぐる」細川周平編『民謡からみた世界音楽：うたの地脈』、ミネルヴァ書房、2012年3月、pp.319-334.
  34. 「中欧の作曲家としてのリゲティ：「規範」とのこじれた関係」『思想』2012年4月号(No.1056)、pp.262-277.
  35. 「中東欧のなかの作曲家たち：3つのスケッチ」関府寺司、伊東信宏、三谷研爾編『コ

- ンフリクトのなかの芸術と表現：文化的ダイナミズムの地平』大阪大学出版会、2012年3月、pp.149-163.
36. Where chalda was born: a geopolitical sketch of Bulgaria's pop-folk music, Proceedings of the *International Workshop OSAKA-PRAHA 2011*, Between "National" and "Regional" Reorientation of Studies on Japanese and Central European Cultures, ed. by Kenji MITANI, Overseas Visiting Program Complex for Multilingual and Multicultural Studies Osaka University, March 2012, pp.56-60.
  37. 「作曲された悪夢：リゲティ『アパリツィオン』をめぐる」『文学』2012年11/12月号、pp.71-87.
  38. Bartók's Slovak Folksong Arrangements and Their Relationship to Stravinsky's *Les noces*, *Studia Musicologica* 53/1-3, 2012, pp.311-322.
  39. 「音楽におけるナショナリズム：ラプソディの歴史と第一次大戦」山室信一ほか編『現代の起点 第一次大戦』第3巻「精神の変容」、岩波書店、2014年6月、pp.193-214.
  40. 「ラプソディ史補論」『待兼山論叢』第48号、美学篇、2014年12月、pp.1-17.
  41. 「東欧演歌研究序説」『民族藝術』第31巻、2015年4月、pp.52-56.
  42. 「夢と音楽：リゲティ『アパリシオン』を中心に」荒木浩編『夢と表象：ねむりところの比較文化史』、勉誠出版、2017年1月、pp.226-242.
  43. 「『ツィガース』再考：バルトーク・イエリー・ラヴェル」『アリーナ』第20号（2017年11月、pp.580-591.
  44. 「モノローグ・オペラ『新しい時代』再演をめぐる3年間」（『記憶の劇場』大阪大学社会学連携叢書）、2020年3月、pp.123-142.
  45. 「民俗音楽の採譜と作品の記譜」『楽譜でわかる20世紀音楽』（久保田慶一編、アルテス・パブリッシング、2020年3月）pp.65-83.
  46. 「「ポップフォーク」の展開」『民族藝術学会機関誌arts/』36号（2020年4月）、pp.10-13.
  47. 「『美しき水車小屋の娘』とは誰か？：サイコロジカル・ホラーとして聴く」（『アリーナ』23号、2020年12月、p.310-320)
  48. 「グレン・グールドと物としてのピアノの関係」『病跡学会誌』100号、2021年1月、p.10-18.
  49. 「2010年代のポップフォーク（東欧演歌）」（『民族藝術学会機関誌arts/』37号（2021年3月）、特集「想像と摩擦：グローバルアート再考」p.8-15）、他にイヴァ・ネニッチ（伊東訳）「音楽における地域主義」、岩谷彩子「表面的音楽：ルーマニアのマネレがつなぐ

- 世界」、上畑史「音楽と民族的アイデンティティ」、ステラ・ジヴコヴァ（伊東信宏訳）「15年後の補足：ブルガリアのポップフォークがひらいた新しいページ」の監修、pp.8-60.
50. 「演奏会のバックステージから」（博物館叢書『徴の上を鳥が飛ぶ』、大阪大学出版会、2023年3月、pp.12-15）
51. “Who Is Miyako?: Explorations of the ‘Virág az ember…’ Series and the Significance of ‘…Mijakónak’”, *Perspectives on the Music of György Kurtág: Performance, Language and Memory*, Rachel Beckles Willson, Gergely Fazekas (eds), Brepols, October 2025, pp.43-58.

#### VI. その他（辞典項目、概説記事、書評等のうち主要なもの）

1. 「作品解説」（スコア『ドヴォルジャーク交響曲第9番ホ短調《新世界より》作品95』、音楽之友社、2004年4月、pp.iii-viii）
2. 「作曲家と語る」（トランスミュージック／対話する作曲家「権代敦彦 ビデオ・アーティスト・兼古昭彦氏を迎えて」公演パンフレット解説、2004年5月、ザ・シンフォニーホール）
3. 「《東京の夏》が形成してくれたもの」（第20回《東京の夏》音楽祭2004フェスティバル・マガジン、2004年7月、pp.74-75）
4. 「音楽の謀略家としてのJ・ハイドン」（『レコード芸術』第53巻第8号、2004年8月、pp.42-44）
5. 「パリのロシア風ナイト・クラブ：ケッセル『朝のない夜』再読」（日本室内楽振興財団機関誌『奏』22、2004年11月、pp.7-8）
6. 「ハイドンとショスタコーヴィチをめぐって」（小澤征爾、第34回サントリー音楽賞受賞記念コンサート解説、サントリーホール、2004年12月12日）
7. 「終末はいつも唐突にやってくる：バルトークの形式感覚」（東京交響楽団第525回定期演奏会プログラムノート、2005年5月20日、p.10-11）
8. 「音楽機械の夢のもつれ」（『アヴァンギャルド宣言：中東欧のモダニズム』井口壽乃、関府寺司編、三元社、2005年9月、pp.275-276）
9. 書評「関口義人著『ジブシー・ミュージックの真実』」（『図書新聞』、2005年10月）
10. 「三輪さんと話してみたけれどよくわからない」（トランスミュージック／対話する作曲家「三輪眞弘 人類学者・中沢新一を迎えて」公演パンフレット解説、2006年5月）
11. 「ジェルジ・リゲティを悼む」（朝日新聞文化欄（2006年6月26日夕刊）
12. 「細川俊夫《旅人》など」大阪フィルハーモニー（第400回定期演奏会2006年7月6日・

7日)

13. 「中央ヨーロッパとモダニズムについての対論」(語り手:小島亮、聞き手:伊東信宏)(関府寺司編『越境／モダンアート』大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」研究報告書、2007年3月、pp.105-127)
14. 「『チャルガ』に夢中」(日本室内楽振興財団機関誌『奏』27, 2007年4月、pp.9-10)
15. 「テクスチュアの交感: TRANSMUSICのブログより」(トランスミュージック／対話する作曲家「江村哲二 脳科学者・茂木健一郎を迎えて」公演パンフレット解説、2007年5月)
16. 「作品解説(リゲティ: ピアノ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲、チェロ協奏曲)」(東京シンフォニエッタ第21回定期演奏会、2007年10月18日、トッパンホール)
17. 「批評、プロデュース、聴衆」(徳丸吉彦ほか編『世界音楽の本』岩波書店、2007年12月、pp.225-30)
18. 「心中の場とズルナ」(『やそしま』第2号、2008年11月、pp.71-75)
19. 「プログラムノート」(ハイドン: 十字架上のキリストの最後の7つの言葉ほか解説、ジョス・ファン・インマゼール フォルテピアノリサイタル、2009年3月12日、トッパンホール)
20. 「コパチンスカヤとL氏: あるディレクタントの横顔」(『紫明』第24号、2009年3月、pp.42-46)
21. 「藝術とは癒しなのか?」(吉岡洋、岡田暁生編『文学・芸術は何のためにあるのか?』東信堂、2009年3月、pp.71-80.)
22. 「バルトークの『基礎的実験期』」(高橋悠治CD『バルトーク初期ピアノ作品集』解説、フォンテック、2009年6月)
23. 「村上春樹『1Q84』一物語の中の《シンフォニエッタ》」(『音楽の友』2009年8月号、pp.101)
24. 「スカララッティ、バルトーク、そして何人かの中東欧のピアニストたち」(『ユリイカ』、2010年4月、pp.108-112)
25. 「映画『かいじゅうたちのいるところ』をめぐる断章」(『学会会報』891号、2011年10月、pp.83-87)
26. 「マーラーとボヘミアの楽師たち(前編):《交響曲第1番》と奇怪な葬送」(『フィルハーモニー』NHK交響楽団機関誌、2011年10月、pp.19-21)
27. 「マーラーとボヘミアの楽師たち(後編): クレズマー音楽としてのマーラー」(『フィルハーモニー』NHK交響楽団機関誌、2011年11月、pp.18-21)

28. 「バルトーク《管弦楽のための協奏曲》スコア解説」音楽之友社、2012年6月
29. 「リゲティと20世紀：亡命以前の傷跡」（東京フィルハーモニー交響楽団第73回オペラシティ定期演奏会パンフレット、2012年10月18日、東京オペラシティ）
30. 「断想」（ムック『吉田秀和』音楽之友社、2012年10月、pp.132-135）
31. 「東欧演歌研究会について」（『ナマール』17号、2012年12月、pp.12-14）
32. 「権代敦彦さんの仕事」（サントリー芸術財団「作曲家の個展：権代敦彦」パンフレット、2013年10月）
33. 「ゴツェ・デルチェフの楽師市場」（日本室内楽振興財団機関誌『奏』40、2013年11月、pp.13-14）
34. 「クルトーグ+リゲティ／バルトーク：三人の作曲家の生地を巡る」（『アリーナ』第16号、2013年12月、pp.302-308）
35. 「『三井の晩鐘』と琵琶法師」（日本室内楽振興財団機関誌『奏』41、2014年4月、pp.13-14）
36. 「第一次大戦末期ウィーンにおける『歴史的演奏会』」（図書新聞、2014年7月）
37. 対談「柴田南雄著作集刊行に際して」（小沼純一と対談、『図書新聞』）
38. 「バルトーク《弦楽器・打楽器・チェレスタのための音楽》スコア解説」音楽之友社、2015年10月、pp.iii-xv.
39. 「プファルツの楽師村巡り」（日本室内楽振興財団機関誌『奏』43、2015年4月、pp.13-14）
40. 「恩師を語る」（学士会『U7』60号、2015年3月、pp.50-53）
41. 「バルトークの旋律の向こう側」（NHK交響楽団『フィルハーモニー』第87巻第4号、2015年5月号、pp.35-38）
42. 「音楽のエッセンティア“現代音楽の楽しみ方”をめぐって」（サントリー・サマーフェスティバル解説書、2015年）
43. 「この世の外から聞こえてくる音楽」（奥彩子／西成彦／沼野充義編『東欧の想像力』松籟社、2016年1月、p.92-94）
44. 「ケルンでのもう一つの騒乱」（『レコード芸術』2016年3月号、pp.89-92）
45. 「第一次大戦末期ウィーンにおける「歴史的演奏会」」（藤原辰史編『第一次大戦を考える』京都大学人文科学研究所、2016年5月13日、pp.63-73）
46. 「今月死去のコチシュ・没後10年のリゲティ 「実験場」のハンガリー、転換のとき」（朝日新聞文化欄、2016年11月21日夕刊）
47. 「ユーラ・ギュラーのフレンチ・バロック」（『レコード芸術』2017年9月号、pp.57-60）

48. 「リリー・バストレの城館で起こったこと」(『レコード芸術』2017年10月号、pp.65-68)
49. 「NHK交響楽団定期演奏会解説」バルトーク 弦楽のためのディヴェルティメント、舞踊組曲、弦楽器、打楽器、チェレスタのための音楽、NHKホール、2017年9月Bプロ
50. 「ヴェロニカ・エーベルレ演奏会曲目解説」(バルトーク：ヴァイオリン・ソナタ第1番、バッハ：ヴァイオリン・ソナタ第3番、シューマン：ヴァイオリン・ソナタ第2番)、トッパンホール、2017年10月28日
51. 「曲目解説 アルディッティ弦楽四重奏団+白井剛」(クルターグ「12のミクロロード」、リゲティ弦楽四重奏曲第2番、クセナキス ST4、Ikhoor, Tetras) ローム・ミュージックシアター、2017年6月23日
52. 「ヨハン・シュトラウスII世『こうもり』解説」2017年11月、日生劇場。
53. 「バルトーク晩年の作品群」『モーストリー・クラシック』2017年8月号、pp.44-45)
54. 「ハイドン、モーツァルトとフォルテピアノ」ムジカノーヴァ編 ONTOMO MOOK『フォルテピアノから知る古典派ピアノ曲の奏法』(2017年10月号)
55. 「三輪眞弘+前田真二郎『新しい時代』の蘇演」(『レコード芸術』2018年1月号、pp.57-60)
56. 「ビョークのピエロ・リュネールを妄想する」(『レコード芸術』2018年2月号、pp.55-58)
57. 「トーマス・アデス『皆殺しの天使』を観て」(『レコード芸術』2018年3月号、pp.53-56)
58. 「自然の音楽：『東欧』から」(草津国際音楽アカデミーパンフレット、2018年9月、pp.74-75)
59. 「ハイドンの時間」(NHK交響楽団、2018年、pp.24-25)
60. 書評 太田峰夫『バルトーク——音楽のプリミティヴィズム』(東京：慶應義塾大学出版会、2017年出版、261頁+11頁)(『音楽学』2018年64巻1号、p.76-77)
61. 「クルレンツィスの誘い込むところへ」(クルレンツィス+ムジカエテルナ演奏会パンフレット、2019年2月)
62. 「東欧民俗音楽」(『美学の事典』丸善書店、2019年)
63. ハーゲン・カルテット演奏会「ハイドン&バルトーク・ツィクルス」曲目解説(ハイドンのエルデーディ・カルテット6曲とバルトークの弦楽四重奏曲第2、3、6番、2019年10月1、2、3日、トッパンホール)
64. 松井拓史・伊東信宏「作品解説」(スコア『コダーイ《ガラランタ舞曲》』、音楽之友社、2020年4月、pp.ii-xii)
65. CD評：「コパチンスカヤ、イル・ジャルディーノ・アルモニコ「ヴィヴァルディ、その先に」」(『レコード芸術』2020年10月号、p.92.)

66. CD評：イザベル・ファウストほか「兵士の物語」『レコード芸術』2021年9月号, p.94.
67. 片山杜秀・伊東信宏往復書簡(『レコード芸術』2022年1月号より2023年7月号まで連載)
68. ショパン・コンクールと「4ビット・ガムラン」(『民族藝術学会機関誌arts/』38号(2022年3月)、pp.159-161.
69. 「ピアニスト ラドゥ・ルプーさんを悼む」(朝日新聞、2022年5月1日)
70. 「ウクライナの音楽」(『レコード芸術』2022年8月号)
71. 「颯爽と厳粛の間：リゲティとコパチンスカヤに」(東京都響広報誌、2022年12月)
72. 「リゲティであることの恍惚と不安」『レコード芸術』2023年5月号
73. 「すべてはここからはじまった：一聴取者によるイベント・レポート」岡田暁生・三輪真弘編『配信芸術論』(2023年10月、アルテス出版、pp.34-44.)
74. 「ブルガリアのちんどん屋——リマノフ兄弟と「楽師市場」、大阪大学総合学術博物館叢書 21『ちんどん屋：宣伝・広告と芸能のハブとなる生業』(山崎達哉編、2024年12月、pp.71-75.)
75. 「負けるピアノ」『思想』No. 1209、2025年1月号、p.2-6.
76. 事典項目 “Ryuichi Sakamoto”, *MGG Online*, 2025年7月21日掲載.
77. 「イーノの旧作とレイチェルの新作と」(『レコード芸術オンライン』2025年7月29日掲載.)

## VII. 企画・主催した公演など

1. ザ・フェニックスホールでの公演企画（とりわけ「ピアノはいつピアノになったか？」のレクチャー・コンサート・シリーズ（2003～2005年に第1～8回、その後補遺版が2016年）
2. 三輪真弘「新しい時代」再演プロジェクト（2018年12月8、9日愛知県芸術劇場、12月16日ザ・フェニックスホール、佐治敬三賞受賞）
3. 「ラヴェルが幻視したワルツ」（2021年10月2日京都コンサートホール）
4. ファリャ『ペドロ親方の人形芝居』（いいむろなおき演出、2025年2月14、15日ピッコロシアター、4月26日箕面メイプルホール）

その他、演奏会評（主として朝日新聞に261篇）、翻訳（19篇）、口頭発表・講演・およびパネルディスカッション参加など（149件）

## 井元秀剛名誉教授 略歴・主要業績

### 略歴

- 1985年 3 月 東京大学教養学科卒業  
 1987年10月 パリ第 8 大学言語学科修士課程修了  
 1989年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科仏語仏文学修士課程修了  
 1993年 5 月 東京大学大学院人文科学研究科仏語仏文学博士課程単位取得退学  
 1993年10月 大阪大学講師言語文化部  
 1996年10月 大阪大学助教授言語文化部  
 1999年 7 月 パリ第 8 大学博士学位取得（言語学博士）  
 2005年 4 月 大阪大学助教授大学院言語文化研究科配置換  
 2007年 4 月 大阪大学准教授大学院言語文化研究科配置換  
 2014年10月 大阪大学言語文化研究科言語文化学専攻教授  
 2022年 9 月 大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻教授  
 2026年 3 月 定年により退職

### 主要研究業績

#### [著書]

1. *Le problème linguistique de la référence des syntagmes nominaux en français et en japonais*, ANRT, 2003年 3 月
2. 『メンタルスペース理論による日仏英時制研究』, ひつじ書房, 2010年 2 月
3. 『中級フランス語時制の謎を解く』, 白水社, 2017年 9 月

他 共著 9 点

#### [辞典]

1. 『ロベール・クレ仏和辞典』（鳥居正文氏他 8 氏との共訳）, 駿河台出版社, 2011年 4 月

#### [論文]

1. 「役割・値概念による名詞句の統一的解釈の試み」『言語文化研究』21, pp.97-117. 1995 年
2. “Le nom propre et la thèse de la dénomination”, 『フランス語学研究』30, 14-26. 1996.

3. “Les pronoms démonstratifs *celui-ci* et *celui-là*”, *Etudes de Langue et Littérature Françaises* 70, 1997.
4. 「指示性と周知性の関連について —「あのN」とce Nをめぐる対象言語学的考察 —」『フランス語学研究』 34, 14-26. 2000年
5. 「未来形はテンスなのか？」『Gallia (大阪大学フランス語フランス文学会)』, 3-10. 2001年
6. 「フランス語におけるVV構文とVOV構文について」『言語文化研究』, 129-149. 2003年
7. “A Single Meaning Approach to the Semantics of “any””, *Journal of Hokkaido Linguistics* 3, 29-40. 2004
8. « L'expression de la « réflexivité » en japonais et en français : étude comparative », *Modèle linguistiques*, pp.11-35, 2007年12月
9. “Le défini et l'indéfini dans une langue sans article”, *Langue française* 171, 13-26. 2011年9月
10. 「日本語とフランス語の談話構成原理」『フランス語学研究』 46, 1-17. 2012年6月
11. 「フランス語間接話法における時制」『言語文化研究』 44, 1-18. 2018年3月

他 27点

## 岡島昭浩名誉教授 略歴・主要業績

### 略歴

#### 〈学 歴〉

- 1979年 3 月 福岡県立福岡高等学校卒業  
 1983年 3 月 九州大学文学部文学科（国語学国文学専攻）卒業  
 1986年 3 月 九州大学大学院文学研究科修士課程（国語学国文学専攻）修了  
 1987年 3 月 九州大学大学院文学研究科博士後期課程（国語学国文学専攻）中退

#### 〈職 歴〉

- 1987年 4 月 九州大学助手（文学部国語学国文学講座）  
 1989年 4 月 京都府立大学女子短期大学部講師  
 1992年 4 月 京都府立大学女子短期大学部助教授  
 1995年 4 月 福井大学助教授（教育学部・国語科）（2000年 4 月より教育地域科学部・言語教育講座）  
 2002年 4 月 大阪大学助教授（併任）（文学研究科国文学・東洋文学講座）  
 2002年10月 大阪大学助教授（文学研究科国文学・東洋文学講座）（2007年 4 月より准教授）  
 2010年 4 月 大阪大学教授（文学研究科国文学・東洋文学講座）（2022年 4 月より人文学研究科日本文学・日本語史学講座）  
 2026年 3 月 大阪大学定年退職

#### 〈非常勤講師歴〉

中村学園短期大学、九州大学医療技術短期大学部、福岡教育大学、京都府立医科大学医療技術短期大学部、花園大学、甲南女子大学、姫路獨協大学、岡山大学、京都府立大学、京都大学、九州大学、京都産業大学

#### 〈学会等役員〉

- 日本語学会 大会企画運営委員、情報電子化委員、電子情報委員、常任査読委員、  
 評議員、広報委員（委員長）  
 訓点語学会 委員

|          |              |
|----------|--------------|
| 国語語彙史研究会 | 幹事、庶務主任      |
| 国立国語研究所  | 共同研究員、外部評価委員 |
| 国文学研究資料館 | 資料調査員        |
| 懷徳堂記念会   | 理事、事務局長      |

### 主要業績一覧

#### 著書（共著）

1. 『日本語源大辞典』（前田富祺監修）小学館2005年4月
2. 『シリーズ日本語史2 語彙史』岩波書店2009年11月

#### 論文

1. 都賀庭鐘 読本の漢語 『語文研究』57九州大学国語国文学会1984年6月
2. 元禄時代に於ける字音M尾N尾の発見—中村惕斎の「韻学私言」— 『文献探究』18文献探究の会1986年9月
3. 近世唐音の重層性 『語文研究』63九州大学国語国文学会1987年6月
4. 元禄期の字音仮名遣の一例—中根元圭序『筌蹄集』のワ行仮名と唇音韻尾— 『文献探究』20文献探究の会1987年9月
5. 文雄におけるムとン—『磨光韻鏡』華音の十七転十九転ム表記の意味— 『文学研究』85九州大学国語国文学会1988年2月
6. 『はまおき』 解題 奥村三雄（編）『九州方言の史的研究』桜楓社1989年2月
7. 指微韻鏡私抄略の刊本—寛文九年刊『韻鏡秘伝抄』— 『奥村三雄先生退官記念国語学論叢』桜楓社1989年6月
8. 唐音語存疑 『文献探究』25文献探究の会1990年3月
9. 近世唐音の清濁 『訓点語と訓点資料』88訓点語学会1992年3月
10. 武家共通語と謡曲 『雅俗』3雅俗の会1996年1月
11. 漢語資料としての詩学書— 『詩語碎金』を例として— 『語文研究』86・87九州大学国語国文学会1999年6月
12. （共著）『西国立志編』の漢語—左傍訓を有する漢字語彙とその索引— 『福井大学教育地域科学部紀要 第I部 人文科学 国語学・国文学・中国語学編』51福井大学教育地域科学部2000年12月

13. (共著)『西国立志編』の漢字語彙—英語片仮名表記を有する漢字語彙とその索引—『国語国文学』40福井大学2001年3月
14. 江戸期韻学における『音韻日月燈』 高田時雄(編)『明清時代の音韻学』京都大学人文科学研究所2001年3月
15. 元禄の辞書 井上敏幸・上野洋三・西田耕三(編)『元禄文学を学ぶ人のために』世界思想社2001年4月
16. 半濁音名義考 迫野虔徳(編)『筑紫語学論叢』風間書房2001年4月
17. 「言海採収語…類別表」再読 『国語語彙史の研究二十二』和泉書院2003年3月
18. 大矢透以前の大為爾 『国語文字史の研究七』和泉書院2003年11月
19. 大矢透以前の史的五十音図研究 『語文』82大阪大学国語国文学会2004年6月
20. 『俚言集覧』『増補俚言集覧』における『今昔物語』からの引用について 筑紫国語学談話会(編)『筑紫語学論叢Ⅱ』風間書房2006年5月
21. 『今昔物語集』の「東鳥」と「東雁」—『俚言集覧』・芥川龍之介「偷盗」・方言意識史の中で— 『待兼山論叢 文学篇』40大阪大学文学会2006年12月
22. 〈五音歌〉の変容—外郎売りと姓名判断— 飯倉洋一(編)『テキストの生成と変容』大阪大学大学院文学研究科2008年3月
23. 出典未詳の四字熟語「屍山血河」『国語語彙史の研究二十九』和泉書院2010年3月
24. 寺尾東海の韻学と荻生徂徠 『語文』92・93大阪大学国語国文学会2010年3月
25. 近世語学「輕重、義」 釘貫亨・宮地朝子(編)『ことばに向かう日本の学知 名古屋大学グローバルCOEプログラム』ひつじ書房2010年9月
26. 「肩がこる」『国語語彙史の研究三十』和泉書院2011年3月
27. ウェブ検索の応用 荻野綱男・田野村忠温(編)『講座ITと日本語研究 6 コーパスとしてのウェブ』明治書院2011年7月
28. 明治中期の回覧雑誌「共究会文章会」附 魚住折蘆・和辻哲郎遺文 『大阪大学大学院文学研究科紀要』54大阪大学大学院文学研究科2014年3月
29. 『韻鏡安見録』と『韻鏡反切名乗即鑑』 『語文』102大阪大学国語国文学会2014年6月
30. 「ひいやり・ふうわり」型から「ひんやり・ふんわり」型へ 『国語語彙史の研究三十六』和泉書院2016年3月
31. 西郷隆盛はどう語らせられてきたか 『語文』113大阪大学国語国文学会2019年12月
32. 大正時代の菊池方言資料『言葉の栞』『坂口至先生退職記念日本語論集』創想社2020年3月
33. 昭和初期、福岡県直方の方言矯正書二種 筑紫日本語研究会(編)『筑紫語学論叢Ⅲ—

- 日本語の構造と変化― 風間書房2021年3月
34. 近代語資料としての『史談会速記録』 田中牧郎・橋本行洋・小木曾智信（編）『コーパスによる日本語研究 近代編』 ひつじ書房2021年11月
35. 人名に使われる漢字の用法の変化について―一字一音(一字一拍)の読みを中心に― 『語文』 121大阪大学国語国文学会2023年12月

### 書評・解説

1. 〔書評〕湯沢質幸著『唐音の研究』 『国語学』 158国語学会1989年9月
2. 書評 国立国語研究所編『太陽コーパス 雑誌『太陽』日本語データベース』、『雑誌『太陽』による確立期現代語の研究』 『太陽コーパス』 研究論文集』 『日本語科学』 20国立国語研究所2006年10月
3. (解説) 言語からみた近世文化 亀井孝・大藤時彦・山田俊雄（編）『日本語の歴史5 近代語の流れ』（復刊）平凡社2007年7月
4. 〔書評〕釘貫亨著『近世仮名遣い論の研究―五十音図と古代日本語音声の発見―』 『日本語の研究』 6（1）日本語学会2010年1月
5. 解説 松本修『どんくさいおかんがキレルみたいな。方言が標準語になるまで』 新潮文庫2013年5月
6. 書評 大木一夫著『ガイドブック日本語史』 『歴史言語学』 3日本歴史言語学会2014年11月
7. 解説 井上ひさし『新版 国語元年』 新潮文庫2018年1月

### 学会時評

1. 研究資料（史的研究）（〈特集〉2004年・2005年における日本語学界の展望）『日本語の研究』 2（3）日本語学会2006年7月
2. 研究史（〈特集〉2010年・2011年における日本語学界の展望）『日本語の研究』 8（3）日本語学会2012年7月

### 事典項目

1. 「声母」「韻字」「韻尾」「韻脚」「韻母」「韻目表」「疊韻」「通韻」「押韻」「二百六韻」「平水韻」「三十六字母」「漢字三音考」「字音仮字用例」「漢吳音図」 佐藤喜代治（編）『漢字百科事典』 明治書院1996年1月
2. 「筑紫方言」「浜荻（筑紫）」「菊池俗言考」 飛田良文ほか（編）『日本語学研究事典』 明

治書院2007年1月

3. 「岡井慎吾」「韻学」「圈発」「字訓」「字典」前田富祺・阿辻哲次（編）『漢字キーワード事典』朝倉書店2009年5月
4. 「音韻日月燈」「音韻断」「漢吳音図」「浜荻（筑紫）」「江村北海」「太田全齋」「岡島冠山」佐藤武義・前田富祺（編）『日本語大事典』朝倉書店2014年11月
5. 「於乎輕重義」「太田全斎」「大矢透」「漢字三音考」「傭字例」日本語学会（編）『日本語学大辞典』東京堂出版2018年10月
6. 「語種」「和語」「漢語」「外来語」「混種語」「語彙の変化」金水敏（編）『よくわかる日本語学』ミネルヴァ書房2024年7月

## その他

1. 旧仮名遣変換について『情報処理語学文学研究会会報』10情報処理語学文学研究会1991年12月
2. 人文系wwwページの試み『福井大学情報処理センターニュースNETWORK』10（4）福井大学情報処理センター1997年2月
3. インターネットで調べる（特集・ことばを調べる）『日本語学』16（12）明治書院1997年10月
4. 日本語研究におけるインターネット利用の現状について『人文学と情報処理』15勉誠社1997年12月
5. 文学研究者の情報発信『本とコンピュータ』3トランスアート1998年1月
6. インターネット言語学情報（26）ことば遊びと遊びのことば『言語』29（2）大修館書店2000年2月
7. インターネット言語学情報（29）書く『言語』29（5）大修館書店2000年5月
8. インターネット言語学情報（32）日本語学史と資料の複製『言語』29（8）大修館書店2000年8月
9. インターネット言語学情報（35）JIS漢字の第3・第4水準『言語』29（11）大修館書店2000年11月
10. インターネット言語学情報（38）論文データと学会ページ『言語』30（2）大修館書店2001年2月
11. 複製本と電子化『かりん』32福井大学附属図書館2001年3月
12. インターネット言語学情報（41）辞書・検索『言語』30（5）大修館書店2001年5月
13. インターネット言語学情報（44）聞く『言語』30（8）大修館書店2001年8月

14. インターネット言語学情報 (47) 日本語で…… 『言語』 30 (11) 大修館書店2001年11月
15. 日本語学とインターネットの使い方 (特集・今どきの日本語学入門) 『日本語学』 24 (4) 明治書院2005年4月
16. 「漢字文化圏」とは 『2004-2005年度大阪大学大学院文学研究科共同研究報告書 台湾における日本文学・国語学の新たな可能性』 2006年3月
17. 「積ん読」の語誌 南陀楼綾繁&積ん読フレンズ『山からお宝 本を積まずにはいられない人のために』 けものみち計画2008年12月
18. 私が勧めるこの一冊 (第21回) 『近世的表現』 中村幸彦【著】 『日本語学』 30 (1) 明治書院2011年1月
19. (共著) 電子化が望まれる近代語資料探索—日本語史を研究する大学院生の報告から— 『近代語コーパス設計のための文献言語研究成果報告書』 国立国語研究所2012年10月
20. (共著) 近代語コーパスの構築と活用に向けて (日本語学会2012年度秋季大会ワークショップ発表要旨) 『日本語の研究』 9 (2) 日本語学会2013年4月
21. (共著) イロハ韻の展開 (ブース発表、日本語学会2014年度秋季大会研究発表会発表要旨) 『日本語の研究』 11 (2) 日本語学会2014年10月
22. 韓国国立中央図書館所蔵の日本古典籍—善本解題【国語学】 大高洋司・陳捷 (編) 『日韓の書誌学と古典籍』 勉誠出版2015年5月
23. (共著) 日本語の先端的な動向の解明と、そのための新しい資料論 (日本語学会2018年度秋季大会シンポジウム報告) 『日本語の研究』 15 (1) 日本語学会2019年4月
24. (共著) 近代の作文資料 いちよう祭展示会・展示目録・解説2019年5月
25. 訓点資料研究に期待すること 語彙史研究の立場から 『訓点語と訓点資料』 146訓点語学会2021年3月
26. 雑録 懷徳堂の登場する小説など 『懷徳』 93懷徳堂記念会2025年1月

## 岸田文隆名誉教授 略歴・主要業績

### 【略歴】

- 1979年 3 月 京都教育大学教育学部附属高等学校卒業  
 1983年 3 月 大阪外国語大学外国語学部朝鮮語学科卒業  
 1985年 3 月 大阪外国語大学大学院外国語学研究科東アジア語学専攻修士課程修了  
 1988年 3 月 京都大学大学院文学研究科言語学専攻修士課程修了  
 1991年 3 月 京都大学大学院文学研究科言語学専攻博士後期課程単位取得満期退学  
 1992年11月 富山大学人文学部講師  
 1999年 4 月 大阪外国語大学外国語学部助教授  
 2007年 2 月 大阪外国語大学外国語学部教授  
 2007年10月 大阪大学大学院言語文化研究科教授  
 2022年 4 月 大阪大学大学院人文学研究科教授  
 2026年 3 月 大阪大学大学院人文学研究科を定年退職

### 【著書（単著）】

1. 1997.3: 『「三譯總解」の満文にあらわれた特殊語形の来源』、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、263p.
2. 2022.8: 『(鍵屋歴史館所蔵 朝鮮語大通詞小田幾五郎編) 虎説【解題・翻刻・現代語訳】』、対馬鍵屋歴史館、48p.+図版[1]p.

### 【著書（共著）】

1. 2005.8: 『Aston文庫所蔵 交隣須知一解題・本文・索引・原文一』、弘文閣（ソウル）、共著者：片茂鎮・岸田文隆。分担：pp.8-31。なお、資料の翻字・影印部分のpp.33-226, pp.1-453は片茂鎮との共同作業。
2. 2005.11: 『아스톤 (W.G.Aston) 旧蔵・京都大学文学部所蔵 隣語大方一解題・索引・原文一』、不二文化（ソウル）、共著者：片茂鎮・岸田文隆。分担：pp.8-31。なお、資料の翻字・影印部分のpp.33-226, pp.1-453は片茂鎮との共同作業。
3. 2006.3: 『아스톤 (W.G.Aston) 旧蔵・京都大学文学部所蔵 漂民対話一解題・本文・索引・原文一』、不二文化（ソウル）、共著者：片茂鎮・岸田文隆。分担：pp.7-79。なお、資料の翻字・影印部分のpp.81-152, pp.293-748は片茂鎮との共同作業。

4. 2015.3:『対馬宗家文書史料 朝鮮訳官発給ハングル書簡調査報告書』、対馬歴史民俗資料館編、長崎県教育委員会、共著者:松原孝俊・中野等・山口華代・岸田文隆・金東哲・趙炯熙・梁興淑・金京美。分担:翻刻編のpp.29-126、解説編日本語版pp.131-286の和訳部分、研究編のpp.389-396。
5. 2018.7:『朝鮮通信使易地聘礼交渉の舞台裏—対馬宗家文庫ハングル書簡から読み解く』、九州大学出版会(九州大学韓国研究センター叢書3)、共著者:松原孝俊・岸田文隆・許秀美・金京美・金周弼・金徳珍・金東哲・権洙用・黄文煥・小西敏夫・酒井裕美・酒井雅代・趙炯熙・鄭丞恵・中野等・朴真完・山口華代・横山恭子・梁興淑。分担:史料編各史料の翻刻・現代語訳・語釈・参考情報の部分。なお、研究編のpp.361-383は金周弼と共同作業。ii+448p.+図版[7]p.
6. 2023.10:『鍵屋歴史館所蔵 朝鮮語大通詞小田幾五郎修正増補 交隣須知』、対馬鍵屋歴史館、共著者:藤本幸夫、岸田文隆。分担:解題篇pp.5-21

#### 【論文】

1. 1989.12:「清学書に現れた満洲語ハングル表記について—特に満洲字 e に対する 2 通りのハングル表記をめぐる—」、『言語学研究』8(京都大学言語学研究会)、pp.17-38
2. 1990.2:「『三譯總解』底本考」、『알타이학보』2(韓国 알타이学会)、pp.87-103
3. 1994.9; 1995.3; 1995.8:「パリ国民図書館所蔵の満漢『千字文』について(1); (2); (資料景印)」、『富山大学人文学部紀要』21, pp.77-133; 22, pp.105-139; 23, pp.113-132
4. 1994.12:「漢語抄의 出処」、『알타이학보』4(韓国 알타이学会)、pp.49-55
5. 1994.12:「満洲字による漢字音表記の規範化—満洲字千字文を資料として—」、『言語学研究』13(京都大学言語学研究会)、pp.1-23
6. 1997.3:「있은 初探」、『日本語と朝鮮語』下(国立国語研究所)、pp.227-254
7. 1997.7:「『漂民対話』のアストン文庫本について」、『朝鮮学報』164、pp.33-53
8. 1998.4:「(研究ノート) アストン旧蔵の『交隣須知』関係資料について」、『朝鮮学報』167、pp.1-39
9. 1998.6:「W. G. Aston旧蔵 江戸期・明治初期 朝鮮語学書 写本類について」、『第5回 朝鮮学国際学術討論会 論文集』(Vol.2 歴史)(国際高麗学会)、pp.101-124
10. 1999.3:「漂流民の伝えた朝鮮語 一島根県高見家文書『朝鮮人見聞書』について—」、『富山大学人文学部紀要』30、pp.113-143
11. 2000.9:「표류민이 전한 한국어」、『21世紀国語学の課題』(ソウル:図書出版月印)、pp.545-592

12. 2000.11.:「アストン旧蔵江戸期・明治初期朝鮮語学書写本類調査報告」、『青丘学術論集』17 (韓国文化研究振興財団)、pp.141-167
13. 2002.12.:「『漂民対話』の朝鮮語 —その虚構的側面—」、『京都大学言語学研究』21、pp.109-145
14. 2004.12.:「満漢合璧本における原文と訳文」、『東アジア出版文化研究 こはく』(文部科学省科学研究費特定領域研究「東アジア出版文化の研究」総括班)、pp.169-185
15. 2004.12.:「『漂民対話』解題」、『Approaches to Eurasian Linguistic Areas』(神戸市看護大学コミュニケーション学講座)、pp.123-183
16. 2006.7.:「早稲田大学服部文庫所蔵の「朝鮮語訳」について —「隣語大方」との比較—」、『朝鮮学報』199/200、pp.1-35
17. 2008.3.:「早稲田大学服部文庫所蔵『朝鮮語訳』の朝鮮語かな表記について (その1: 子音について)」、『Dynamics in Eurasian Languages』(神戸市看護大学人文科学領域)、pp.71-102
18. 2009.10.:「語学書と歴史記録 —早稲田大学服部文庫所蔵「朝鮮語訳」と対馬宗家文書との照合」、『朝鮮半島のことばと社会—油谷幸利先生還暦記念論文集』(明石書店)、pp.236-268
19. 2009.10.:「資料翻字 早稲田大学服部文庫所蔵「朝鮮語訳」対話篇」、『朝鮮語史研究』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)、pp.161-199
20. 2010.6.:「朝・日 語学書「隣語大方」の淵源」、『李東哲編『日本語文化研究』(延辺大学出版社)、pp.65-72
21. 2011.6.:「『朝鮮語訳』にあらわれた別差上京をめぐる対話の日付について —対馬宗家文書 山川治五右衛門「朝鮮御代官記録」に基づいて—」、『ユーラシア諸言語の動態(Ⅱ) —多重言語使用域の言語—』(神戸市看護大学/ユーラシア言語研究コンソーシアム)、pp.53-73
22. 2012.3.:「『漂民対話』対話文例の来源についての再追跡」、『訳学과 訳学書』3 (訳学書学会)、pp.107-127
23. 2012.5.:「朝鮮語対話書「惜陰談」・「和館問答」と戸田頼母「贅言試集」」、『李東哲・権宇編『日本語文化研究』第二輯上 (延辺大学出版社)、pp.21-29
24. 2013.3.:「韓国国会図書館所蔵「(秘書) 朝鮮通言国字」の朝鮮語かな表記について」、『訳学과 訳学書』4 (訳学書学会)、pp.47-82
25. 2014.4.:「対馬宗家文書朝鮮語ハングル書簡類の解説作業について」、『국어사연구』18 (국어사학회)、pp.161-190

26. 2015.10.:「対馬宗家文書ハングル書簡類について一報告書の刊行を契機として一」、『朝鮮学報』237、pp.1-63
27. 2015.12.:「대마도 (對馬島) 중가문서 (宗家文書) 한글 서간류에 대하여」、『韓國學研究論文集』4 (中国文化大学韓国語文学系出版)、pp.1-20
28. 2016.2.:「대마도 (對馬島) 중가문서 (宗家文書) 한글 서간류에 대하여 -지금까지의 성과와 앞으로의 과제-」、『어문학논총』35 (국민대학교 어문학 연구소)、pp.1-19
29. 2017.3.:「倭学訳官崔[琯] (伯玉) のハングル書簡よりみた易地行聘交渉」、『韓国朝鮮文化研究』16、東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室、pp.25-42
30. 2018.9.:「江戸時代日朝往復ハングル文書の分布」、『比較日本学』43 (韓国漢陽大学校日本学国際比較研究所)、pp.21-38
31. 2019.12.:「富山市立図書館山田文庫所蔵「朝鮮口聞書」解題ならびに翻刻」、『ユーラシア諸言語の動態Ⅲ 一言語の多様性と類型と混成言語一』CSEL21号 (Kobe City College of Nursing)、pp.21-48
32. 2023.3.:「鍵屋歴史館所蔵「書状集」について 一薩摩苗代川伝来朝鮮語学書「韓牘集要」との比較一」、『譯學과 譯學書』10-12、pp.55-75
33. 2023.3.:「対馬鍵屋歴史館所蔵ハングル書簡集「片紙集」の成立年について」、『ユーラシア諸言語の動態Ⅳ 一言語接触・混成言語・言語生態一』(*Dynamics in Eurasian Languages IV — Language Contact, Mixed Language and Linguistic Ecology —*) CSEL 24号、神戸市看護大学人間科学領域、pp.55-70
34. 2025.12.:「「朝鮮語訳」対話篇の文例第95条～第102条についての再検討一「告還使記録」と「以酏送使第四船使記録」を資料として一」、『朝鮮学報』266、pp.1-25

#### 【教科書 (共著)】

1. 1996.6.:『グローバル朝鮮語』、くろしお出版、127p.、共著者：塚本秀樹・岸田文隆・藤井幸之助・植田晃次。分担：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
2. 2013.3.:『朝鮮語教程』、溪水社、118p.、共著者：小西敏夫・岸田文隆・酒井裕美。分担：pp.42-89

#### 【その他】

1. 1986.2.:『朝鮮語大事典』、大阪外国語大学朝鮮語研究室編、角川書店、2725p. +103p.、共著者：塚本勲・北嶋静江・阿倍清比古・有吉登美子・李文子・池原繁徳・奥田一広・生越直樹・生越まり子・岸田文隆・熊谷明泰・後藤正史・小西敏夫・小林爽子・永井

三千諸・野崎充彦・藤戸聡・前田綱紀・益田治・尹鍾順。分担：共同編纂につき本人担当部分抽出不可能。

2. 2013.7. : 「書評 朴真完著『「朝鮮資料」による中・近世語の再現』」、『朝鮮学報』 228、pp.159-164

## 堤一昭名誉教授 略歴・主要業績

### 学歴

- 昭和59年（1984）3月 京都大学文学部史学科（東洋史学）卒業  
 昭和63年（1988）3月 京都大学大学院文学研究科東洋史学専攻修士課程 修了  
 平成3年（1991）3月 京都大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士後期課程 研究指導認定退学

### 職歴

- 平成8年（1996）4月 大阪外国語大学外国語学部講師（国際文化学科 比較文化講座）  
 平成13年（2001）1月 大阪外国語大学外国語学部助教授  
 平成19年（2007）4月 大阪外国語大学外国語学部准教授  
 平成19年（2007）10月 大阪大学大学院文学研究科准教授（文化動態論専攻 共生文明論講座）  
 平成25年（2013）6月 大阪大学大学院文学研究科教授  
 令和4年（2022）4月 大阪大学大学院人文学研究科教授（人文学専攻グローバルヒストリー・地理学講座）  
 令和8年（2026）3月 定年退職

### 学会等役員

- 東洋史研究会 編集委員 昭和61年度（1986）、昭和63～平成2年度（1988～1990）  
 史学研究会 編集委員 平成6～7年度（1994～1995）  
 日本モンゴル学会 紀要編集委員 平成19～27年度（2007～2015）  
 日本モンゴル学会 理事 平成20年度（2008）～

### 著書

1. 『異文化コミュニケーションを学ぶ人のために』（共著）細谷昌志編，世界思想社，2006年2月，285p., 「多文化社会の諸相—モンゴル時代（十三-十四世紀）の東アジア」（pp.153-168）
2. 『現代中国地域研究の新たな視圏』（共著）西村成雄・田中仁編，世界思想社，2007年3月，304p., 「「中国」の自画像——その時間と空間を規定するもの」（pp.30-61）
3. 『中華民国の制度変容と東アジア地域秩序』（共著）西村成雄・田中仁編，汲古書院，

- 2008年3月, 290p., 「蒙元時代における「中国」の拡大と正統性の多元化」(pp.175-189)
4. 『歴史学のフロンティア 地域から問い直す国民国家史観』(共著) 秋田茂・桃木至朗編, 大阪大学出版会, 2008年10月, 259p., 「第一章 中国の自画像と日本の中国像」(pp.35-58)
  5. 『グローバルヒストリーと帝国』(共著) 秋田茂・桃木至朗編, 大阪大学出版会, 2013年3月, 300p., 「モンゴル帝国と中国—コミュニケーションと地域概念」(pp.44-70)
  6. 『交錯する知 衣装・信仰・女性』(共著) 武田佐知子編, 思文閣出版, 2014年3月, 671p., 「『中国歴代帝后像』と南薰殿の図像」(pp.60-74)
  7. 『史学会125周年リレーシンポジウム2014 1 教育が開く新しい歴史学』(共著) 大阪大学歴史教育研究会・公益財団法人史学会編, 山川出版社, 2015年11月, 223p., 桃木至朗・堤一昭・秋田茂・飯塚一幸「阪大史学系の歴史教育改革」(pp.10-35)
  8. 『新しく学ぶ西洋の歴史——アジアから考える』(共著) 南塚信吾, 秋田茂, 高澤紀恵責任編集, ミネルヴァ書房, 2016年2月, 397+23p., 第1章 序論「世界の一体化の始まり」(pp.5-6), 「「マルコ・ポーロ」と日本」(p.23)
  9. 『東西学術研究と文化交渉: 石濱純太郎没後50年記念国際シンポジウム論文集』(共著) 吾妻重二編, 関西大学出版部, 2019年11月, 495p., 「石濱純太郎は、いつ内藤湖南に出会ったのか?—新出資料『景社紀事』の紹介を兼ねて」(pp.297-316)
  10. 『内藤湖南と石濱純太郎 近代東洋学の射程: 内藤・石濱両文庫収蔵資料を中心に: 国際シンポジウム論文集』(共著) 玄幸子編, 関西大学出版部, 2023年3月, 242p., 「石濱文庫所蔵 石濱純太郎の受講・講義ノート類」(pp.113-137)
  11. 『周縁資料と東西言語接触・文化交渉の諸相』(共著) 奥村佳代子編, 関西大学出版部, 2026年3月刊行予定, 「東洋学者・石濱純太郎の勉学の軌跡—大阪大学石濱文庫ノート類全冊の調査から—」(19p.)

## 学術論文

1. クビライ政権の成立とスベエテイ家, 『東洋史研究 (東洋史研究会)』第48巻第1号, 1989年6月, pp.120-147. [中国語訳] 忽必烈政权的建立与速不台家族 (张永江 译) 『蒙古学資料と情報』(中国・内蒙古社会科学院・呼和浩特) 1991年 (『复印报刊資料・宋辽金元史』1991年3月号転載, pp.51-60)
2. 元代華北のモンゴル軍団長の家系, 『史林 (史学研究会)』第75巻第3号, 1992年5月, pp.32-67
3. 李璿の乱後の漢人軍閥—済南張氏の事例—, 『史林 (史学研究会)』第78巻第6号, 1995年11月, pp.1-29

4. 元朝江南行臺の成立,『東洋史研究(東洋史研究会)』第54巻第4号,1996年3月, pp.71-102, 折込図1
5. 大元ウルスの江南駐屯軍,『大阪外国語大学論集』第19号,1998年9月, pp.173-198
6. 大元ウルス治下江南初期政治史,『東洋史研究(東洋史研究会)』第58巻第4号,2000年3月, pp.1-32, 折込図1
7. 大元ウルス江南統治首脳の二家系,『大阪外国語大学論集』第22号,2000年3月, pp.193-218
8. 大元ウルス高官任命命令文研究序説,『大阪外国語大学論集』第29号,2003年9月, pp.175-194
9. 石濱文庫の拓本資料 概要とモンゴル時代拓本一覧,『13, 14世紀東アジア史料通信』第6号,2006年3月, pp.1-8
10. 石濱文庫拓本資料調査の概要—2006年度前半まで—,『大阪外国語大学論集』第35号,2007年3月, pp.181-192
11. 蒙元時代(公元13-14世紀)における「中国」の拡大と正統性の多元化,『“現代中国社会变动与东亚新格局”国际学术论坛论文集』,南開大学(天津市),2007年8月, pp.125-133
12. 「中国」統治における国家の正統性と言語——蒙元時代の言語・文化政策研究の現状から(「中國」統治中の國家正統性與言語:從對蒙元的語言文化政策的研究現狀談起),『第二屆現代中國社會變動與東亞新格局 國際學術討論會 論文集』,國立東華大學(臺灣・花蓮),2008年8月, pp.54-55, 203-212
13. 中国の自画像と日本の中国像:歴史的変遷の画期を求めて(中国的自我観与日本の中国観:追寻历史变迁中的转折期),『現代「中国」の社会変容と東アジアの新環境 第三回国際シンポジウム論文集』,大阪大学中国文化フォーラム,2009年8月, pp.31-39.[中国語訳]中国的自我観与日本の中国観:追寻历史的转折期(高洋 译)『现代中国的变动与东亚新格局 第一辑』(北京)社会科学文献出版社,ISBN 978-7-5097-3598-5,2012年8月, pp.107-118
14. 中国の自画像と日本の中国像—歴史的変遷の画期を求めて—,『大阪大学中国文化フォーラム ディスカッションペーパー』№2009-8,2009年12月, pp.1-11
15. 「中国」の構造をめぐる現代日本の議論—帝国から国民国家へ(中国語タイトル:現代日本围绕“中国”构造论讨论——从帝国到国民国家),『現代中国與東亞新環境5・百年中国與周邊地域 論文集』,内蒙古大学,2011年8月, pp.213-222
16. 石濱文庫所蔵の桑原隲藏書簡—マルコ・ポーロの「キンサイ=行在」説をめぐって,『待

- 兼山論叢・文化動態論篇』46号, 2012年12月, pp.1-20
17. 近代国民国家シンボルとしての君主／指導者図像の出現（领袖画像の粉墨登場：作为代表现代国民国家（nation state）象征的君主——中日比较的视角），『第八届现代中国与东亚新格局国际学术讨论会暨第三届近现代河南与中国学术研讨会论文集』（下），鄭州大学，2014年8月，pp.686-699
  18. 大阪大学附属図書館所蔵石濱文庫の隋唐時代墓誌拓本，『待兼山論叢・文化動態論篇』48号，2014年12月，pp.1-17
  19. 石濱純太郎と石濱文庫：整理・調査・研究の現状，『大阪大学中国文化フォーラム OUFUCブックレット』vol.7, 戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ（青旗）』のデジタル化と公開の可能性—東洋文庫政治史資料研究班・研究セミナーの記録—（堤一昭・田中仁編）（ISSN2187-6487オンライン），2015年3月，pp.5-13 [中国語訳] 石濱純太郎和石濱文庫：整理，調査，研究現状（吳杲星 译）『西部蒙古论坛（新疆维吾尔自治区社会科学学会联合会）』2019年（1）号，2019年1月，pp.91-96
  20. 『フフ・トグ（青旗）』ほか近代史資料の調査・整理の現状と公開にむけて，『大阪大学中国文化フォーラム OUFUCブックレット』vol.9, 戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ（青旗）』データベースの構築・公開に向けて（田中仁・堤一昭編）（ISSN2187-6487オンライン），2016年3月，pp.5-14
  21. 石濱純太郎の“モンゴル学事始”，『大阪大学中国文化フォーラム OUFUCブックレット』vol.10-1, 大阪大学石濱文庫所蔵『フフ・トグ/青旗』（1941年），2017年2月，pp. i-iv
  22. 近代日本における「東洋史」構想とその後—教科書と学問分野形成を手がかりに—，『第12次國際學術會議 現代中國與東亞新格局：改革開放40周年的歷史認識 論文集』（上），ソウル大学校，2018年8月，pp.81-94
  23. 石濱文庫所蔵 石濱純太郎自筆稿本類の発見—明治末年の「支那文学科」の学修，大正初年の「文会」の資料として—，『待兼山論叢・文化動態論篇』52号，2018年12月，pp.21-39
  24. 『景社紀事』簡介および影印，『懷德堂研究』14号，2023年2月，pp.33-67

## 訳注

1. 『事林廣記』人事類譯注，（共著）『東方学報（京都）』第75冊，2003年3月，（担当箇所）pp.321-330

## その他

### 事典類

1. 『角川世界史辞典』, (共著), 角川書店, ISBN 978-4040321004, 2001年10月, 「厓山」「経世大典」「元曲」「元曲選」「建州女直」「後金」「行省」「サルフの戦い」「山海関」「ジャミー・アッタワーリーフ」「十八史略」「順帝(元)」「女直」「水滸伝」「宋濂」「島夷志略」「文献通考」「文天祥」「夢梁録」「ラシード・ウッディーン」ほか計69項目(署名原稿)
2. 『中国文化史大事典』, (共著), 大修館書店, ISBN 978-4469012842, 2013年5月, 「元一統志」「元史」「元史新編」「元史訳文証補」「元朝名臣事略」「朱思本」「新元史」「草木子」「平陽」「耶律楚材」計10項目(署名原稿)

### 研究報告書

1. 『13,14世紀東アジア諸言語史料の総合的研究 元朝史科学の構築のために』 科研基盤(B) 研究成果報告書(研究代表者: 森田憲司・奈良大学教授), 「石濱文庫の拓本資料 概要とモンゴル時代拓本一覧(改訂版)」(pp.131-138)(学術論文9の改訂版)
2. 『石濱文庫の学際的研究—大阪の漢学から世界の東洋学へ—』 平成23年度大阪大学文学研究科共同研究 研究成果報告書(研究代表者・編集: 堤一昭)(全46頁), 2012年3月, 「チンギス・カン画像の“興亡”—石濱文庫所蔵の満洲国モンゴル人向けカレンダーをめぐって—」ほか(pp.1-3, 16-37)
3. 『東洋学者・石濱純太郎をめぐる学術ネットワークの研究』 平成24年度大阪大学文学研究科共同研究 研究成果報告書(研究代表者・編集: 堤一昭)(全56頁), 2013年3月, 「ネフスキー宛シチュツキー漢文書簡」, 「石濱文庫資料調査・研究の過程と展望—文庫資料のデータベース構築にむけて—」, 「資料編」(pp.17-20, 23-54)
4. 『モンゴル帝国と中世グローバル化の研究』, (公財) JFE21世紀財団 2012年度大学研究助成 アジア歴史研究報告書(研究代表者・編集: 堤一昭)(全32頁), 2013年3月, 「モンゴル帝国時代のグローバル化の実態」(pp.14-19)

### 図録

1. 『平成2年春季企画展「中国石刻拓本展」出品図録』, (共著) 竺沙雅章監修, 吉本通雅編, 京都大学文学部博物館, 1990年4月, 「宣懿皇后契丹文字哀冊」「大金得勝陀頌碑」「勅修奴兒干永寧寺記碑」(pp.40-42)

### 博物館展示企画および解説執筆

1. 「米芾の名品」拓本展，華雨藏珍之館（（公財）アンタレス山浦財団，栃木県足利市），第14回-第15回一般公開拓本展，2015年度
2. 「明代の名手 董其昌の書—没後380年記念—」拓本展，華雨藏珍之館，第18回-第19回一般公開拓本展，2017年度
3. 「唐代の書—李白と顔真卿」拓本展，華雨藏珍之館，第20回-第21回一般公開拓本展，2018年度
4. 「蘇軾（蘇東坡）—文人の理想像」拓本展，華雨藏珍之館，第22回-第23回一般公開拓本展，2019年度
5. 「趙孟頫の書—元代の文雅 没後700年記念」拓本展，華雨藏珍之館，第24回-第27回一般公開拓本展，2022年度-2025年度
6. 「石濱純太郎展—なにわ町人学者の東洋学—」大阪大学総合学術博物館 第24回企画展，2023年6月3日-7月29日 (<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/2023-05-23-17589/>) (展示資料解説集も公開)

### 学界展望

1. 1999年の歴史学界—回顧と展望—東アジア，中国「五代・宋・元」，『史学雑誌』第109編第5号，2000年5月，pp.212-220

### 新刊紹介

1. 櫻井智美，飯山知保，森田憲司，渡辺健哉編『元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア』勉誠出版，2021年5月，『内陸アジア史研究』第37号，2022年3月，pp.47-49

## 藤岡穰名誉教授 略歴・主要業績

### 略歴

1962年10月 大阪府豊中市生まれ

### (学歴)

1981年 2 月 ヴィアートル学園洛星高等学校卒業

1981年 4 月 東京藝術大学美術学部芸術学科入学

1986年 3 月 東京藝術大学美術学部芸術学科卒業

1986年 4 月 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程入学

1988年 3 月 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了

1988年 4 月 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程入学

1990年 3 月 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程退学

2021年11月 京都大学博士（文学）

### (主要職歴)

1990年 4 月 大阪市立美術館学芸員

1999年 4 月 大阪大学大学院文学研究科助教授

2007年 4 月 大阪大学大学院文学研究科准教授（職名変更）

2009年 4 月 大阪大学大学院文学研究科教授

2023年 4 月 大阪大学大学院人文学研究科教授（職名変更）

### (非常勤講師)

種智院大学（1997～1998年度）

大阪市立大学（1999～2002・2004・2005・2007・2008・2010・2012・2014・2016・2018年度）

京都大学人文科学研究所（2000年度）

鳴門教育大学（2003年度）

大阪樟蔭女子大学（2005～2007・2009～2011年度）

大阪成蹊大学芸術学部（2009～2018年度）

神戸女学院（2011～2017年度）

北海道大学（2011年度）

九州大学（2012年度）

愛知県立芸術大学（2015・2018・2021・2024年度）

同志社大学（2016～2018年度）

**(美術館・博物館関係)**

京都国立博物館調査員（2000年度）

京都国立博物館客員研究員（2001～2005年度）

奈良国立博物館調査員（2006～2020年度）

大阪歴史博物館評価委員（2009年3月～2018年2月）

神戸市立博物館外部評価委員（2012年9月～2022年8月）

神戸市立博物館リニューアル検討委員会副委員長（2015年4月～2017年3月）

奈良国立博物館買取等協議会委員（2017・2020・2022年9月）

奈良国立博物館客員研究員（2021年度～現在）

九州国立博物館買取協議会常任委員（2023年4月～現在）

天津市文化財保護審議会委員（2025年4月～現在）

**(自治体史・文化財関係)**

豊中市史編さん委員（1998年10月～2006年3月）

茨木市史編さん委員（2000年4月～2017年3月）

藤井寺市文化財審議員（2008年9月～2010年8月）

八尾市文化財保護審議会委員（2009年9月～現在）

八尾市史編集委員（2011年7月～2022年6月）

和歌山県文化財保護審議会委員（2012年3月～現在）

摂津市史執筆委員（2015年4月～現在）

四天王寺史跡保存活用計画策定委員会専門委員（2016年8月～2019年3月）

茨木市文化財保護審議会委員（2017年3月～現在）

枚方市文化財保護審議会委員（2018年4月～現在）

吹田市文化財保護審議会委員（2019年12月～現在）

葛井寺文化遺産保存活用委員会委員（2020年7月～2021年6月）

神河町史編集委員会委員（2021年4月～現在）

葛井寺文化遺産保存活用委員会委員長（2021年7月～現在）

藤井寺市文化財保護審議会委員（2021年9月～現在）

**(学会活動)**

美術史学会西支部常任委員（2020・2011・2013～2017・2020～2023年度）

美術史学会西支部事務局長（2018・2019年度）

仏教芸術学会会長（2019年1月～現在）

美術史学会西支部代表（2021年度）

**(受賞)**

第3回国華賞（1991年10月）

大阪大学総長顕彰 研究部門（2014年7月）

**主要業績****(単著)**

- 1 『東アジア仏像史論』（中央公論美術出版、2021年7月）

**(共著)**

- 1 『もっと知りたい薬師寺の歴史』（薬師寺編、2020年3月、pp.14-23・28-31・36-55）
- 2 『シリーズ古代史をひらく 古代寺院』（吉川真司編、岩波書店、2019年12月、pp.135～194）
- 3 『新修 豊中市史 第6巻 美術』（編集：豊中市史編さん委員会、豊中市、2005年12月、pp.26・29-38・64-156）
- 4 『わかさ美浜町誌〈美浜の文化〉第3巻 拝む・描く』（編集：美浜町誌編纂委員会、2005年3月、作品解説第1章第1節1～4・10～21）
- 5 『カラー版 日本仏像史』（監修：水野敬三郎、美術出版社、2001年5月、p.146）

**(単編書)**

- 1 監修『新編八尾市史 美術工芸編』（八尾市、2022年3月）
- 2 監修『週刊朝日百科 国宝の美28 彫刻11 快慶と定慶』（朝日新聞出版、2010年3月）
- 3 責任編集『新修 茨木市史 第9巻 史料編 美術工芸』（茨木市、2008年3月）

**(共編書)**

- 1 企画・監修『日韓金銅半跏思惟像—科学的調査に基づく研究報告—』（韓國國立中央博物館、2017年12月）
- 2 『聖徳太子信仰の美術』（大阪市立美術館監修、東方出版、1996年1月）

**(学術論文)**

- 1 「正智院不動明王坐像の史的位罫—不動明王にみる経軌・図像・彫像の交差—」（『仏教芸術』15、pp.33～58、2025年9月）
- 2 「金銅仏の東漸—中国から日本へ—」（財団法人東洋哲学研究所編『シルクロード研究論集 第2巻 仏教東漸の道 西域・中国・極東篇』公益財団法人東洋哲学研究所、pp.333-393、2024年12月）
- 3 「小浜・正法寺半跏思惟像について」（『待兼山論叢』57芸術篇、pp.1-23、2024年3月）
- 4 「根津美術館所蔵「金銅鎚鍍五尊仏坐像」再考 附 根津美術館所蔵金銅仏の蛍光X線分析の結果と所見」（『此君』14、pp.5-41、2023年3月）

- 5 「四天王寺金堂本尊の姿をもとめて一史料と模刻像の再検討」(和宗総本山四天王寺編・石川知彦監『聖徳太子と四天王寺』法蔵館、pp.49-52、2021年11月)
- 6 「永観堂禅林寺本尊「みかえり阿弥陀」瞥見」(『國華』1511、pp.31-42、2021年9月)
- 7 「古代金銅仏の制作技法」(『季刊考古学』別冊「美術史と考古学」雄山閣、pp.73-80、2021年3月)
- 8 「様式・技法・金属組成からみた興福寺と薬師寺の古代金銅仏―薬師寺金堂本尊像の移坐・非移坐問題への一視点―」(『待兼山論叢』54芸術篇、pp.1-36、2020年12月)
- 9 「西湖周辺における呉越～南宋の仏教石刻」(板倉聖哲編『アジア仏教美術論集東アジアⅣ(南宋・大理・金)』中央公論美術出版、pp.119-155、2020年12月)
- 10 “The Cult and Statuary of Zaō Gongen,” (*Defining Shugendō: Critical Studies on Japanese Mountain Religion*, Bloomsbury Academic, pp.167-186, 2020年11月)
- 11 「平城京 東山の古代石佛」(『新羅文物研究』12、pp.205-221、2019年12月)
- 12 「縄文・弥生から奈良の美術」(古田亮編『教養の日本美術史』ミネルヴァ書房、pp.13-41、2019年11月)
- 13 「東大寺法華堂伝来の天平期諸像に関する一考察」(菱田哲郎・吉川真司編『古代寺院史の研究』思文閣出版、pp.217-238、2019年7月)
- 14 「杭州烟霞洞と飛来峰の羅漢像について」(『徹底討論 大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌―地域社会からグローバル世界へ―』九州大学大学院人文科学研究院、pp.461-488、2019年3月)
- 15 「初唐期における長安造像の復元的考察」(肥田路美編『アジア仏教美術論集東アジアⅡ(隋唐)』中央公論美術出版、pp.65-105、2019年3月)
- 16 「河北白玉像與曹仲達風格」(『佛・縁：河北曲陽白石佛教造像藝術展論文集』財団法人佛光山文教基金会、pp.158-174、2017年12月)
- 17 「曹仲達様式の継承―鎌倉時代の仏像にみる宋風の源流」(アジア遊学208『ひと・もの・知の往来 シルクロードの文化学』勉誠出版、pp.42-54、2017年5月)
- 18 「日本古代の薬師如来造像史からみた芬皇寺薬師如来」(『元暁学研究』21、pp.103-120、2016年12月)
- 19 「蔵王権現をめぐる諸問題」(久保智康編『日本の古代山寺』高志書院、pp.321-352、2016年9月)
- 20 「中国南朝造像とその伝播」(『美術資料』89、pp.216-264、2016年6月)
- 21 「京都・某寺と兵庫・慶雲寺の半跏思惟像」(『美術フォーラム21』32、pp.89-96、2015年11月)

- 22 「蔵王権現の信仰とイメージ」(泉武夫責任編集『日本美術全集 第11巻 テーマ巻② 信仰と美術』小学館、pp.207-209、2015年10月)
- 23 「金銅仏の蛍光X線分析、そしてそれから分かること」(2013～2016年度科学研究費補助金 基盤研究 (A)「5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究」研究成果報告書『金銅仏きらきらし いにしへの技にせまる』 pp.52-54、2015年10月)
- 24 「野中寺弥勒菩薩像について—蛍光X線分析調査を踏まえて—」(『MUSEUM』 649、pp.35-63、2014年4月)
- 25 “The mass-Production of Buddhist Sculptures in the Late Heian Period and a Buddhist Sculptor Jōchō,” (*The Challenge of the Object, 33rd Congress of the International Committee of the History of Art, Congress Proceedings – Part3*, pp.931-934、2013年)
- 26 「興福寺南円堂四天王像の再検討—新たな運慶イメージの構築—」(『フィロカリア』 30、pp.95-139、2013年3月)
- 27 「様式からみた新薬師寺薬師如来像」(林温編『様式論——スタイルとモードの分析〈仏教美術論集1〉』竹林舎、pp.32-55、2012年10月)
- 28 「聖徳太子像の成立—四天王寺聖霊院像を基点とする太子像の史的 understanding のために—」(『文学』 11-6、pp.157-169、2010年1月)
- 29 「中国南朝造像に関する覚書—善光寺本尊像の源流を求めて—」(『仏教芸術』 307、pp.13-34、2009年11月)
- 30 「鎌倉彫刻における宋代美術の受容」(文部科学省研究費特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—」報告書『寧波の美術と海域交流』 pp.61-81、2009年3月)
- 31 「斉周・隋の仏教美術におけるソグド美術の受容に関する覚書」(平成18年度～平成20年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B) 研究成果報告書『三次元計測技術を』用いた新羅王陵石像彫刻の総合的比較研究』研究代表者：木下亘、pp.232-244、2009年3月)
- 32 「仏像の受容と変容—インドから中国、東南アジアへ—」(秋田茂・桃木至朗編『歴史学のフロンティア 地域から問い直す国民国家史観』 pp.213-238、大阪大学出版会、2008年10月)
- 33 「仏像と本様——鎌倉時代前期の如来立像における宋仏画の受容を中心に」(『講座日本美術史2 形態の伝承』板倉聖哲編、東京大学出版会、pp.133-163、2005年5月)
- 34 「プノンペン国立博物館蔵「癡王像」をめぐる」(平成14年度～16年度科学研究費補助金 (基盤研究 (A) 1) 研究成果報告書『東南アジア彫刻史における〈インド化〉の

再検討（論文編）』研究代表者：肥塚隆、pp.26-32、2005年3月）

- 35 「蔵王権現—その成立と展開—」（『増補吉野町史』、pp.234-254、2004年3月）
- 36 「文化交流の足跡を示す美術作品への日越共同研究をめざして—オケオ出土の金銅仏を中心に—」（『6. 映像人文学』大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」大阪大学大学院文学研究科・人間科学研究科・言語文化研究科2002・2003年度報告書、pp.44-49、2004年2月）
- 37 「解脱房貞慶と興福寺の鎌倉復興」（『学叢』24、京都国立博物館、pp.9-42、2002年5月）
- 38 「仏像にみる光と空間の視覚化—いわゆる飛天光を中心に—」（『<心>と<外部>—表現・伝承・信仰と明恵『夢記』—』荒木浩編、大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座、pp.101-120、2002年3月）
- 39 「説法印阿弥陀如来像をめぐる試論」（『待兼山論叢』35美学篇、pp.1-25、2001年12月）
- 40 「アンコールの栄光—クメールの歴史と美術—」（総本山四天王寺発行『仏教と文化』34、pp.72-83、2001年10月）
- 41 「伝説の尊像、蔵王権現」（大阪市立美術館編『役行者と修験道の世界—山岳信仰の秘宝—』pp.193-198、1999年9月）
- 42 「聖徳太子孝養像の成立と展開—彫像を中心に—」（大阪市立美術館監修『聖徳太子信仰の美術』所収、東方出版、pp.285-288、1996年1月）
- 43 「総説中国の石仏」（大阪市立美術館『中国の石仏 莊嚴なる祈り』pp.6-15、1995年10月）
- 44 「葛井寺千手観音菩薩坐像の基礎的データ」（大阪市立美術館『国宝葛井寺千手観音』pp.36-59、1995年4月）
- 45 「復古主義と宋風摂取—興福寺と東大寺の鎌倉復興造像を中心に—」（『鹿島美術財団年報』9、pp.156-159、1991年）
- 46 「興福寺南円堂四天王像と中金堂四天王像について（上・下）」（『國華』1137、pp.19-34、1990年8月、『國華』1138、7-19頁、1990年9月）

#### （共著学術論文）

- 1 “Built Year Prediction from Buddha Face with Heterogeneous Labels Modeled as Probabilistic Distribution,” Yiming Qian, Cheikh Brahim El Vaigh, Yuta Nakashima, Benjamin Renoust, Hajime Nagahara, Yutaka Fujioka（共著）、(JOURNAL OF LATEX CLASS FILES, VOL. 14, NO. 8, AUGUST 2021)
- 2 「《調査報告》東京国立博物館所蔵の金堂菩薩半跏像—成分分析と技法を中心に—」（共著者：三田覚之・山口隆介・鏡山智子・閔丙贊・朴鶴洙・權江美、『MUSEUM』673、pp.29-63、2018年4月）

- 3 「飛鳥寺本尊 銅造釈迦如来坐像（重要文化財）調査報告」（共著者：犬塚将英・早川泰弘・皿井舞・三田覚之・八坂寿史・関丙賛・朴鶴洙、『鹿園雜集』19、pp.60-98、2017年7月）
- 4 「〔報告〕可搬型X線回折分析装置を用いた銅造釈迦如来坐像（飛鳥大仏）の材質調査」（共著者：犬塚将英・早川泰弘・皿井舞、『保存科学』56、pp.65-75、2017年3月）

**（展覧会図録：単編）**

- 1 『中国の石仏一荘嚴なる祈り』（大阪市立美術館、1995年10月）
- 2 『国宝葛井寺千手観音』（大阪市立美術館、1995年4月）

**（展覧会図録：共編）**

- 1 『開創1150年記念 醍醐寺 国宝展』（監修：内藤栄、編集：日本経済新聞社文化事業局・大阪中之島美術館、2024年6月）
- 2 『手のひらの上の仏像』（編集：左海きは、四国村ギャラリー、2014年9月）
- 3 『祈りの時代 仏さまの美術―諏訪市の文化財を中心に―』（サンリツ服部美術館、2010年4月）
- 4 『アンコールワットとクメール美術の1000年展』（編集：東京国立博物館・大阪市立美術館・朝日新聞社・NHK・NHKプロモーション、1997年11月）
- 5 『四天王寺の宝物と聖徳太子信仰』（編集：四天王寺の宝物と聖徳太子信仰展実行委員会、1992年10月）

**（科研報告書：単編）**

- 1 『金銅仏きらきらし いにしへの技にせまる』（2013～2016年度科学研究費補助金 基盤研究（A）「5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究」研究成果報告書、2015年10月）
- 2 『科学的調査に基づく半跏思惟像の日韓共同研究（中間報告）』（平成21年度～平成24年度科学研究費補助金 基盤研究（A）研究成果中間報告書、2012年3月）
- 3 『仏教美術における絵画と彫刻』（平成18年度～平成20年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書、2009年3月）
- 4 『随時代彫刻における紀年銘作品の研究』（平成16年度～平成17年度科学研究費補助金 基盤研究（C）研究成果報告書、2011年4月）

**（資料紹介・翻刻）**

- 1 「〔資料紹介〕眞光寺観音菩薩像と新出の個人蔵勢至菩薩像」（『仏教芸術』11、pp.5・75-88、2023年9月）
- 2 「龍角寺薬師如来坐像の蛍光X線分析の結果について」（『早稲田大学會津八一記念博物

館研究紀要』24、pp.81-85、2023年3月)

- 3 「コラム 園城寺金銅仏の基礎的研究—蛍光X線分析を踏まえて—」(『園城寺の仏像 第4巻 鎌倉彫刻篇』思文閣出版、pp.176-177、2019年11月)
- 4 「十一面観音菩薩像 大阪 金禅寺 正安二年(一三〇〇)」(『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇 第16巻』中央公論美術出版、pp.37-43、2020年2月)
- 5 「韋駄天立像」(『国華』1458、37-39頁、2017年4月)
- 6 「関山神社蔵 銅造菩薩立像」(『国華』1420、pp.20-26、2014年2月)
- 7 「木造菩薩立像」(『国華』1368、pp.20-26、2009年10月)
- 8 「十一面観音菩薩像 兵庫 中山寺 寛元二年(一二四四)」(『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇 第6巻』中央公論美術出版、pp.48-55、2008年2月)
- 9 「石造釈迦三尊像」(『国華』1324、34-35頁、2006年2月)
- 10 「阿弥陀如来像 岡山 宝積院 安貞二年(一二二八)」(『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇 第4巻』中央公論美術出版、pp.161-166、2006年2月)
- 11 「阿弥陀如来像 大阪 大円寺 建仁三年(一二〇三)以降」(『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇 第二巻』中央公論美術出版、pp.138-140、2004年2月)
- 12 「大阪・大円寺蔵法橋快慶作阿弥陀如来立像」(『佛教藝術』208、pp.113-116、1993年5月)
- 13 「僧衣資料研究—四分律行事鈔二衣総別篇 本文(抄)並びに訳解—(一)～(三)」(共著者：河野訓・藤岡穰・前田恭二・松田誠一郎・箕輪顕量・山岸公基・吉村稔子、『仏教文化』18(通巻21)、pp.85-114、1987年7月、19(通巻22)、pp.74-87、1988年2月、23(通巻26)、pp.77-94、1990年12月)

#### (作品解説・その他)

- 1 「醍醐寺の歴史と仏像、そしてその魅力」(『開創1150年記念 醍醐寺 国宝展』、164-165頁、2024年6月)
- 2 「コーヒープレイク 仏像研究に欠かせない蛍光X線分析～文系と理系を超えて～」(『電気学会誌』141-10、pp.650-651、2021年10月)
- 3 「[表紙解説] 如意輪観音菩薩坐像(奈良県生駒郡斑鳩町・法隆寺蔵)」(『仏教芸術』7、表紙裏、2021年9月)
- 4 「[表紙解説] 法隆寺金堂壁画 六号壁 阿弥陀三尊」(『仏教芸術』1、表紙裏、2018年10月)
- 5 「京都・妙傳寺の半跏思惟像について」(『学士会会報』927、pp.47-51、2017年11月)
- 6 「半跏思惟像はどこで弥勒菩薩になったか？」(『科学』1017、p.1、2017年5月)

- 7 『日本美術全集 第11巻 テーマ巻② 信仰と美術』（責任編集：泉武夫 小学館、2015年10月）作品解説「役行者半跏像・前後鬼坐像 円楽寺 山梨」「三仏寺奥院（投入堂・愛染堂） 国宝 三仏寺 鳥取」「蔵王権現立像 重文 三仏寺 鳥取」「蔵王権現立像 重文 大峯山寺 奈良」「虚空蔵菩薩坐像 重文 石徹白大師堂 岐阜」「普賢菩薩騎象像 重文 岩船寺 京都」「千手観音菩薩立像（三十三間堂諸尊） 重文 蓮華王院本堂 京都」「厨子入千駄地藏菩薩像 重文 報恩寺 京都」「十一面女神坐像 八坂神社 福井」「女神坐像及び小女神坐像 重文 建部大社 滋賀」「熊野本地仏像 熊野神社 滋賀」「釈迦如来立像 善慶 重文 西大寺 奈良」「水晶製五輪塔形舍利容器 重文 西大寺 奈良」「興正菩薩坐像 善春 西大寺 奈良」「舍利安置状 重文 西大寺 奈良」
- 8 『古寺巡礼 京都南山城の仏たち』（京都南山城古寺の会、2014年4月）作品解説「浄瑠璃寺 重要文化財 吉祥天立像」「岩船寺 重要文化財 阿弥陀如来坐像」「岩船寺 重要文化財 普賢菩薩騎象像」「禪定寺 重要文化財 十一面観音立像」「禪定寺 重要文化財 日光・月光菩薩立像」「禪定寺 重要文化財 四天王立像」
- 9 「歴史ミュージアム 飛鳥仏と中国・南朝様式」（『週刊朝日百科 新発見！日本の歴史03 飛鳥時代1 蘇我氏と大王家の挑戦』、pp.34-36、2013年7月）
- 10 「東大寺南大門二王と興福寺北円堂諸尊」（山本勉監修、別冊太陽『運慶 時空を超えるかたち』、118-135頁、2010年12月）
- 11 「茨木市の美術品調査を振り返って」（『新修茨木市史年報』7、pp.51-60、2008年12月）
- 12 「聖徳太子の忿怒相と八幡神」（ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集3『論集 カミとほとけ—宗教文化とその歴史的基盤—』東大寺、27-28頁、2005年12月）
- 13 「重文 蔵王権現立像（如意輪寺）」（『週刊朝日百科「仏教を歩く」』16、24頁、2004年1月）
- 14 「さまざまな聖徳太子像」（『週刊朝日百科「仏教を歩く」』13、14-15頁、2004年1月）
- 15 「鞍馬寺『毘沙門天』」（『電気協会報』952、pp.50-51、2004年3月）
- 16 「絵を写した薬師寺東院堂聖観音」（『電気協会報』950、pp.52-53、2004年1月）
- 17 「能登・豊財院の馬頭観音」（『電気協会報』948、pp.40-41、2003年11月）
- 18 「法華寺『十一面観音像』」（『電気協会報』946、pp.38-39、2003年9月）
- 19 「峰定寺釈迦如来像」（『電気協会報』944、pp.58-59、2003年7月）
- 20 「大寺薬師の四天王」（『電気協会報』942、pp.40-41、2003年5月）
- 21 「葛井寺の千手観音像」（『電気協会報』940、pp.48-49、2003年3月）
- 22 「興福寺南円堂の四天王像」（『電気協会報』939、pp.34-35、2003年2月）
- 23 「広隆寺の蔵王権現像」（『電気協会報』938、pp.52-53、2003年1月）

- 24 「浄教寺の大日如来像—明恵上人ゆかりの像—」(『電気協会報』937、pp.32-33、2002年12月)
- 25 「伊豆荏山の願成就院—運慶の阿弥陀如来坐像—」(『電気協会報』936、pp.46-47、2002年11月)
- 26 「青龍寺伝来の如来坐像—永青文庫コレクションより—」(『電気協会報』935、pp.34-35、2002年10月)
- 27 「平等院鳳凰堂の阿弥陀如来」(『電気協会報』934、pp.40-41、2002年9月)
- 28 「法隆寺の聖徳太子像」(『電気協会報』933、pp.34-35、2002年8月)
- 29 「黒石寺薬師如来坐像」(『電気協会報』932、pp.44-45、2002年7月)
- 30 「東大寺法華堂・不空罽索観音」(『電気協会報』931、pp.32-33、2002年6月)
- 31 「大阪市立美術館三尊仏碑像—山口コレクションより—」(『電気協会報』930、pp.40-41、2002年5月)
- 32 「京都・宝菩提院の菩薩半跏像—大原野の春—」(『電気協会報』929、pp.34-35、2002年4月)
- 33 『世界美術大全集 東洋編 第3巻 三国・南北朝』(小学館、2000年11月) 作品解説 nos. 237-238・241-244・249・253
- 34 「大阪・葛井寺千手観音と桐」(『桐の博物館だより』5、pp.1-2、2000年8月)
- 35 「興福寺諸堂の鎌倉復興」(週刊朝日百科『日本の国宝057奈良／興福寺3』pp.194-195、1998年3月)
- 36 「金剛力士立像」(『週刊朝日百科 日本の国宝055奈良／興福寺1』148-150頁、1998年3月)
- 37 『平等院と定朝』(日本美術全集第6、講談社、1994年2月) 作品解説nos. 96-102・113
- 38 『日本の仏像<奈良I>』(仏像集成5、学生社、1994年1月) 作品解説nos. 172-207
- 39 『運慶と快慶』(日本美術全集第10、講談社、1991年8月) 作品解説nos. 8-20・53-63
- 40 「太子信仰と多様な聖徳太子像」(『週刊朝日百科 日本の国宝 003 奈良／法隆寺3』pp.83-85、1997年3月)
- 41 『大阪市立美術館開館60周年記念国際フォーラム 美術館の可能性を求めて—市民との共生—報告書』(大阪市立美術館開館60周年記念事業実行委員会、1997年3月)
- 42 「1995年の歴史学会—回顧と展望—日本(古代)9」(『史学雑誌』105-5、pp.74-78、1996年5月)
- 43 「葛井寺千手観音菩薩像について」(『国宝葛井寺千手観音』大阪市立美術館編、pp.6-7、1995年4月)

## 山本佳樹名誉教授 略歴・主要業績

### 略歴等

#### 【略歴】

- 1985年 3 月 大阪大学文学部文学科 卒業
- 1987年 3 月 大阪大学大学院文学研究科前期課程独文学専攻 修了
- 1991年 3 月 大阪大学大学院文学研究科後期課程独文学専攻 単位取得退学
- 1991年 4 月 大阪大学大学院言語文化研究科 助手
- 1993年 4 月 大阪大学言語文化部 講師
- 1996年 1 月 大阪大学言語文化部 助教授
- 2005年 4 月 大阪大学大学院言語文化研究科 助教授
- 2007年 4 月 大阪大学大学院言語文化研究科 准教授
- 2015年 4 月 大阪大学大学院言語文化研究科 教授
- 2022年 4 月 大阪大学大学院人文学研究科 教授
- 2023年 4 月 大阪大学大学院人文学研究科 言語文化学専攻長（2025年 3 月まで）
- 2025年 4 月 大阪大学大学院人文学研究科長
- 2026年 3 月 大阪大学を定年退職

#### 【受賞】

- 2006年 2 月 マックス・ダウテンダイ・フェーダー東京ドイツ文化センター賞2005年
- 2007年 2 月 大阪大学教育・研究功績賞

### 主要業績

#### 【著書】

1. 『幻想のディスクルーローマン派以降のドイツ文学』 荒木英行・木村英二・松井勲・三谷研爾・山本佳樹編著（鳥影社，1994年 2 月）
2. 『戦後ドイツ文学とビューヒナー—ビューヒナー・レーデを読む』 栗林澄夫・谷口廣治・山本佳樹編著（ビューヒナー・レーデ論集刊行会，1995年 9 月）

3. 『ドイツ文学と映画』 山本佳樹（責任編集）・市川明・香月恵里・増本浩子編著（三修社、2024年11月）

他8冊

### 【学術論文】

1. 「ミメーシスと自己言及—トーマス・マンの『ヨゼフとその兄弟たち』」, 『ドイツ文学』第97号（日本独文学会, 1996年10月）, pp. 72-81.
2. 「記憶のなかの国—再統一後のドイツ映画が描く東ドイツ」, 『映画のなかの社会／社会のなかの映画』 加藤幹郎監修／杉野健太郎編著（ミネルヴァ書房, 2011年12月） pp. 281-317.
3. 「ハンス・カストルプの映画見物—トーマス・マンと〈映画論争〉」, 『交錯する映画—アニメ・映画・文学』 加藤幹郎監修／杉野健太郎編著（ミネルヴァ書房, 2013年3月）, pp. 63-113
4. 「ドイツ＝トルコ映画における女性像の変遷」, 『映画とジェンダー／エスニシティ』 加藤幹郎監修／塚田幸光編著（ミネルヴァ書房, 2019年4月）, pp. 131-165.
5. 「初期満映とドイツ映画—雑誌『満洲映画』をてがかりに」, 『独文学報』第36/37号（大阪大学ドイツ文学会, 2021年11月）, pp. 51-74.

他34編

### 【口頭発表】

1. 「呪われた映画？—アメリカ、スイス、日本におけるナチ映画の受容」, 日本映画学会第20回大会, シンポジウム「ナチ映画の周辺—その受容と抵抗をめぐって」（大阪大学）, 2024年12月

他16件

### 【翻訳】

1. ザビーネ・ハーケ『ドイツ映画』 山本佳樹訳（鳥影社, 2010年3月）
2. フリードリヒ・デュレンマット『デュレンマット戯曲集 第1巻』 山本佳樹・葉柳和則・増本浩子・香月恵里・木村英二訳（鳥影社, 2012年10月）

他4件

他に、書評・解説等24点、外部研究資金5件